

2026 年度  
救急救命学科  
シラバス

# ■目次

学修成果(到達目標)	.....	3
カリキュラムマップ	.....	3
カリキュラムツリー	.....	4

## 1年生

年間予定表	.....	6
シラバス	.....	8

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	8	救急救命医療概論	22
英語	9	救急救命処置概論	24
現代の社会	10	救急病態生理学	26
法律入門	11	救急症候学Ⅰ	28
情報処理	12	救急症候学Ⅱ	30
解剖生理学	13	救急症候学Ⅲ	32
人体構造と機能Ⅰ	14	疾病救急医学Ⅰ	34
人体構造と機能Ⅱ	15	疾病救急医学Ⅱ	36
人体構造と機能Ⅲ	16	疾病救急医学Ⅲ	38
薬理学	17	疾病救急医学Ⅳ	40
病理学	18	外傷学Ⅰ	42
微生物学	19	外傷学Ⅱ	44
社会保障論	20	救急救命シミュレーションⅠ	46
医学概論	21	救急救命シミュレーションⅡ	55

## 2年生

年間予定表	.....	62
シラバス	.....	64

開講科目	頁	開講科目	頁
数理リテラシー	64	救急救命シミュレーションⅢ	69
法医学	65	救急救命シミュレーションⅣ	76
地域福祉論	66	臨床実習	81
感染症と災害医療	67	救急用自動車同乗実習	82
環境障害・急性中毒学	68		

ナンバリング	.....	84
教員一覧	.....	87
実務経験を有する教員一覧	.....	87
オフィスアワー・成績評価	.....	88

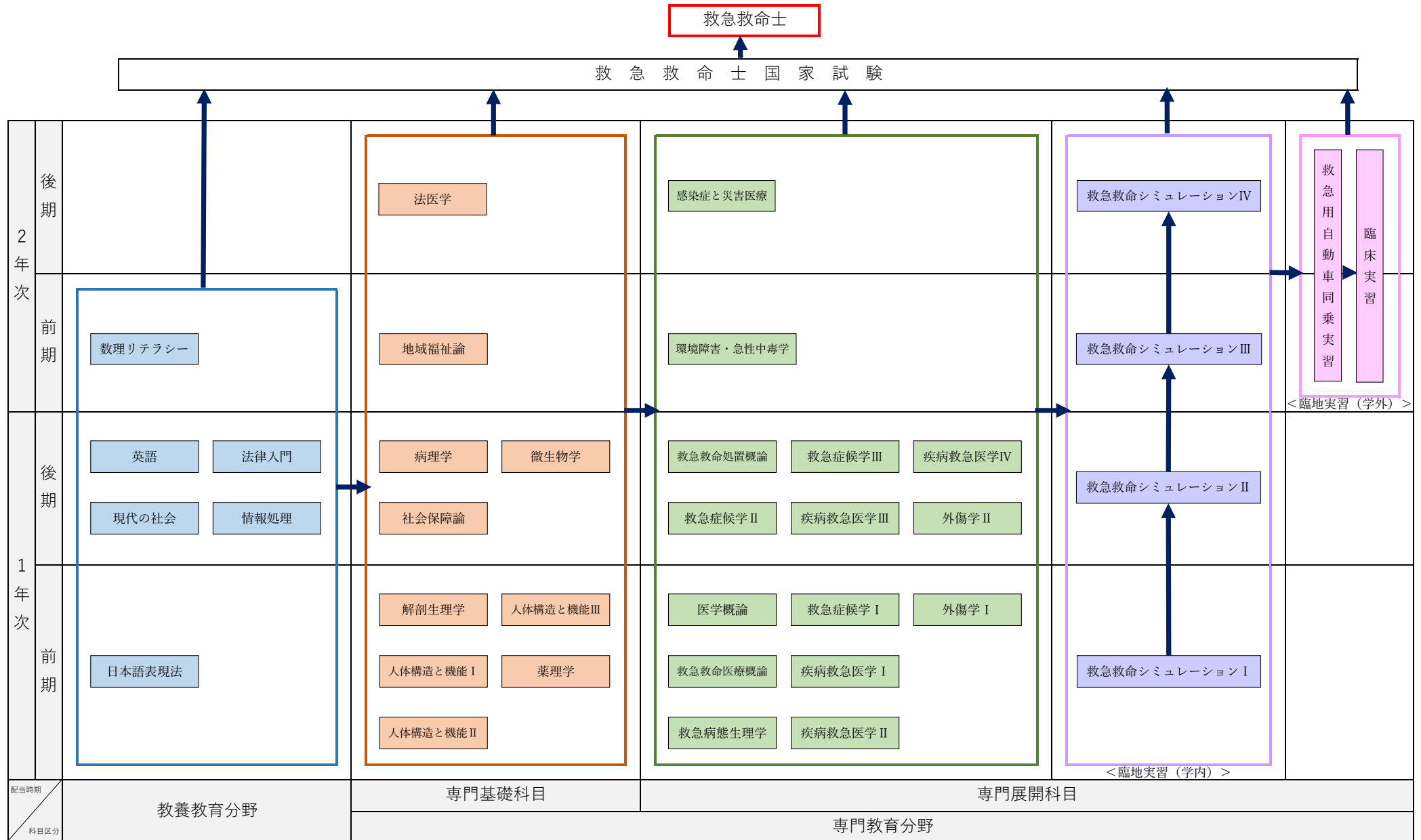
## 学修成果（到達目標）

- 【基礎力】一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
  - ①現代社会を生き抜くための教養を身につけ、命の尊さや人間としての在り方、多様な生き方について理解できる。
  - ②救急救命士としての基礎的な知識と、専門性を理解し応用できる素養を身につけている。
  - ③健康増進に努め、社会人としての責務を果たす心構えを身につけている。
- 【実践力】各分野の実際の場面に対応できる力
  - ①救急救命の現場で必要となる、正確な知識と技術を身につけている。
  - ②他者の痛みに寄り添い、苦痛の予防と軽減に貢献し、救急救命士としての倫理観に基づいて行動することができる。
  - ③救急救命のあらゆる現場において冷静沈着に適切な判断を下すために、何事に対しても最善を尽くす姿勢で取り組むことができる。
- 【人間関係力】専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
  - ①高いコミュニケーション能力と豊かな人間性を身につけ、周囲と良好な人間関係を築くことができる。
  - ②救急救命士の役割・責任と多職種連携の重要性を理解し、チーム医療の一員として他者との連携、協働に努めることができる。
- 【生涯学習力】生涯にわたって学び、成長できる力
  - ①学修内容に興味や関心を持ち、主体的に取り組むことができる。
  - ②課題や目標を自ら設定し、課題の克服や目標達成に取り組むことができる。
  - ③自身の専門的な知識や技術の水準を維持・向上するために研鑽を積み、自己の成長に努めることができる。
- 【地域理解力】地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
  - ①地域に貢献する救急救命士としての責任を理解し、使命感を持って行動することができる。
  - ②進歩する医療と高齢社会の中で、時代や地域のニーズに応じながら、適切な救命行為をするための能力を身につけている。

## 救急救命学科 カリキュラムマップ

学修成果 : 1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力
学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。 ●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次・学修成果															単位数			
			1年次		学修成果					2年次		学修成果					必修	選択	自由		
			前期	後期	1	2	3	4	5	前期	後期	1	2	3	4	5					
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●		●											1		
		英語	15		○	●		●											1		
	人間と社会	現代の社会	15		○	●			●	●									2		
		法律入門	15		○	●			●										2		
	人間と科学	情報処理	15		○	●			●										1		
		数理リテラシー	15								○		●				●		1		
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖生理学	8	○		●	●											1			
		人体構造と機能Ⅰ	8	○		●	●											1			
		人体構造と機能Ⅱ	8	○		●	●											1			
		人体構造と機能Ⅲ	8	○		●	●											1			
	疾患の成り立ちと回復の過程	薬理学	8	○		●	●												1		
		病理学	8		○	●	●												1		
		微生物学	8		○	●	●												1		
	健康と社会保障	法医学	8									○	●	●					1		
		社会保障論	8		○	●	●			●									1		
		地域福祉論	8								○		●	●			●		1		
	専門展開科目	救急医学概論	医学概論	10	○		●	●	●	●									1		
			救急救命医療概論	20	○		●	●	●	●									2		
			救急救命処置概論	20		○	●	●		●	●								2		
			感染症と災害医療	10									○	●	●		●	●	1		
救急症候・病態生理学		救急病態生理学	20	○		●	●		●									2			
		救急症候学Ⅰ	20	○		●	●		●									2			
		救急症候学Ⅱ	20		○	●	●		●									2			
		救急症候学Ⅲ	20		○	●	●		●									2			
疾病救急医学		疾病救急医学Ⅰ	20	○		●	●	●	●									2			
		疾病救急医学Ⅱ	20	○		●	●	●	●									2			
		疾病救急医学Ⅲ	20		○	●	●	●	●									2			
		疾病救急医学Ⅳ	20		○	●	●	●	●									2			
外傷救急医学		外傷学Ⅰ	20	○		●	●		●									2			
		外傷学Ⅱ	20		○	●	●		●									2			
環境障害・急性中毒学		環境障害・急性中毒学	10								○		●	●		●		1			
臨地実習		救急救命シミュレーションⅠ	75	○		●		●	●									5			
		救急救命シミュレーションⅡ	75		○	●		●	●									5			
		救急救命シミュレーションⅢ	75								○		●	●	●	●		5			
		救急救命シミュレーションⅣ	75									○	●	●	●	●		5			
		臨床実習	20日									○	●	●	●	●		4			
	救急用自動車同乗実習	5日									○	●	●	●	●		1				
卒業要件：必修70単位																	70	-	-		



# 救急救命学科

## 1 年生

- 年間予定表
- シラバス

## 2026年度 救急救命学科1年生 年間予定表

### 前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月				1	2	3 入学式	4
	5	6 オリエンテーション	7 オリエンテーション	8	9	10	11
	12	13	14	15 健康診断	16	17	18
	19	20	21 スポーツ大会	22	23	24	25
	26	27	28 B型ワクチン接種	29	30	1	2
5月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26 B型ワクチン接種	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
6月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
7月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30 定期試験	31 定期試験	1
8月	2	3 定期試験	4 定期試験	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20 結果発表	21	22
	23	24	25	26	27 再試験	28 再試験	29
	30	31 再試験	1	2	3	4	5
9月	6	7	8	9	10	11	12

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

## 2026年度 救急救命学科1年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
9月	13	14	15	16 オリエンテーション	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
10月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14 B型ワクチン接種	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30 せいよう祭準備	31 せいよう祭
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18 抗体価検査	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	1	2	3	4	5
12月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
1月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26 定期試験	27 定期試験	28 定期試験	29 定期試験	30
	31	1	2	3	4	5 結果発表	6
2月	7	8	9	10 再試験	11	12 再試験	13
	14	15 再試験	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6
3月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17 (卒業式)	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
C0-0-HCU-01

科目名	日本語表現法				単位認定者	徳田 幸雄		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活において、適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。</li> <li>日本語の特徴を理解するとともに、正しい敬語表現を身につける。</li> <li>目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。</li> </ul>									
学修者への期待等	日本語を知ることとは日本文化を知ることでもある。社会人のための教養という面だけではなく、自らの文化を再認識・再評価し、さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴				事前学修：語族について調べる 事後学修：チェックテストの復習				30	30
2	日本語の歴史				事前学修：古事記について調べる 事後学修：チェックテストの復習				30	30
3	ことばと表現①（熟語，語句）				事前学修：漢検2級レベルの漢字を確認 事後学修：チェックテストの復習				30	30
4	ことばと表現②（ことわざ，故事成語）				事前学修：漢検2級レベルの漢字を確認 事後学修：チェックテストの復習				30	30
5	敬語表現①（敬語の基本）				事前学修：尊敬語と謙譲語の相違の確認 事後学修：チェックテストの復習				30	30
6	敬語表現②（尊敬語と謙譲語）				事前学修：尊敬語と謙譲語の相違の確認 事後学修：チェックテストの復習				30	30
7	話してみよう①（インタビューとショートスピーチ）				事前学修：結婚式スピーチを調べる 事後学修：チェックテストの復習				30	30
8	話してみよう②（グループディスカッション）				事前学修：少子化対策を考える 事後学修：チェックテストの復習				30	30
9	修飾語と被修飾語との関係①（原則論）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
10	修飾語と被修飾語との関係②（練習問題）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
11	句読点の打ち方（原則論）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
12	句読点を打つ練習と文章要約①（境界の点）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
13	句読点を打つ練習と文章要約②（逆転の点）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
14	意見文の書き方（4 STEPS）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
15	意見文の作成と句読点を打つ練習				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習				30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループディスカッション インタビュー ショートスピーチ）									
教科書	プリントを配布する。									
参考文献	『日本語の作文技術（朝日文庫）』本多勝一著 朝日新聞出版 『大学生のための日本語表現実践ノート』米田明美他著 風間書房									
備考	授業内課題については、次の授業内にてフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02					
	●		●								
科目名	英語				単位認定者	ジョーンズ ドミニク		授業内課題 (小テスト、 単語テスト、 発表内容等)	80 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位			評価の方法	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
	授業の概要	<p>日常会話や専攻分野の仕事・職場で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。</p> <p>救急救命の現場での状況確認やバイタルチェック、病状確認、身元確認、傷病歴確認、搬送準備や付添人への説明等、必要となる語彙やフレーズを学び、様々な場面を想定したロールプレイにより、救急時に英語で対応するための基礎力を身につける。</p>									
到達目標	医療現場で使用する基本的な英語（表現）について、必要に応じて「話し」・「聞く」ができる。										
学修者への期待等	集中して英語を聴き、聴することなく英語を声に出すこと。また、ロールプレイやグループワークを行う場面では、積極的な取り組みが期待される。										
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業のイントロダクション、あいさつの表現 Unit 1の導入 単語① Body Parts				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
2	Unit 1: 受診の予約、電話での応対 リスニング練習、和訳、グループワーク、単語①テスト				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
3	Unit 2: 受診、患者の病状や既往歴を尋ねる(1) リスニング練習、和訳、単語② Symptoms and Injuries				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
4	Unit 2: 受診、患者の病状や既往歴を尋ねる(2) グループワーク、単語②テスト				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
5	Unit 3: 問診 体温・血圧の表現 リスニング練習、和訳、単語③ Department				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
6	Unit 3: 診察 痛みの表現、リスニング練習 単語③ テスト				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
7	Unit 1～3 基本表現まとめの小テスト、ロールプレイ				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
8	Unit 4: 薬の服用(1) リスニング練習、 単語④: medicines				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
9	Unit 4: 薬の服用(2) 服薬方法、薬の説明について、 グループワーク、単語④: テスト				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
10	Unit 8: 術前・術後 (1) リスニング練習、和訳				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
11	Unit 8: 術前・術後 (2) 練習問題、リスニング練習				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
12	Unit 9: 待合室での会話 痛みやケガの状態を説明する				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
13	Unit 10: 清拭 リスニング練習、和訳				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
14	医療現場で使用する英語—まとめ 語彙の復習、リスニング、スピーキング練習				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
15	医療現場で使用する英語—小テストとロールプレイ				事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（練習、グループワーク、ロールプレイ）										
教科書	『Introduction to Medical English（医療英語入門）』 稲富百合子他著、松柏社										
参考文献	授業内で指示する										
備考	受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。小テスト等のフィードバックはその都度、授業内で行う。遅刻は授業開始10分以内とする。状況により、遠隔授業に変更する場合がある。										
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）											

<b>科目ナンバリング</b>
C0-0-HS0-03

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●			●	●

科目名	現代の社会				単位認定者	今村 博之		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			

**授業の概要** 現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。

**到達目標** 救急救命士という社会的に評価される人材に足りうる資質を向上させる。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。

**学修者への期待等** 「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	政治制度論	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
2	政治過程論	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
3	日本国憲法①(人権その1)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
4	日本国憲法②(人権その2)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
5	日本国憲法②(人権その③)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
6	日本国憲法④(統治機構①)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
7	日本国憲法⑤(統治機構②)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
8	経済①(会社法)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
9	経済②(市場経済)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
10	経済③(金融政策・財政政策)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
11	経済④(国際市場)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
12	経済⑤(戦後経済史)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
13	社会①(労働問題)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
14	社会②(環境問題)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60
15	社会③(国際関係)	事後学修：履修範囲章末の問題に取り組む	0	60

**アクティブ・ラーニング** 該当なし  
該当あり：キーワード ( )

**教科書** 『政治・経済・社会』大原出版

**参考文献** なし

**備考**

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-04				
	●			●						
科目名	法律入門				単位 認定者	鈴木 一樹		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への 期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	法律の種類と法律を学ぶ意味				事前学修：法律に関するイメージを自分なりに持っておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
2	憲法（1）基本的人権 一平等権、精神的自由等				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
3	憲法（2）基本的人権 一経済的自由、その他の人権				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
4	憲法（3）人権総括、統治機構				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
5	民法（1）総則				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
6	民法（2）物権				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
7	民法（3）債権（契約等）				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
8	民法（4）債権（不法行為）				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
9	民法（5）親族・相続				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
10	刑法（1）総論				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
11	刑法（2）各論				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
12	会社法（1）総論、株式				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
13	会社法（2）機関、組織再編				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
14	消費者法				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
15	その他の重要な法律				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください				30	30
アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配布する。									
参考文献	適宜講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進度に応じて変更する場合がある。									
<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>										
公認会計士として企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●			●						
科目名	情報処理				単位認定者	杉崎 新一		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。									
到達目標	<p>パソコンの基本操作を修得し、業務でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用できることを目標とする。</p> <p>◆Word: 書式設定や印刷設定を利用した基本的な文書・表・図形・写真などを含む文書が作成できる。</p> <p>◆Excel: 書式設定をして表を整えることができ、適切な計算式や関数、グラフを作成できる。</p> <p>◆PowerPoint: プレゼンテーションを理解し、訴求力あるスライド作成とスライドショー実施ができる。</p>									
学修者への期待等	<p>パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は、これを機に操作ができるようにすること。</p> <p>操作ができる者であっても自己流の操作を行うことが多いので、初心に戻り取り組み、自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。</p> <p>操作がわからない部分はそのままにせず、演習中に巡回をするので質問して確認すること。</p>									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	基礎知識: PCの操作・Windowsの基本操作								0	30
2	情報保護: モラルとセキュリティに関する知識 Word: 文書の書式設定・印刷設定								30	30
3	Word: 入力方法・文書入力・ページ設定								30	30
4	Word: 書式設定				事前学修: マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。				30	30
5	Word: 図・表を取り入れた文書の作成								30	30
6	Word: 課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)				事後学修: Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。				30	30
7	Excel: 入力と編集方法・数式や関数・書式設定・表示形式								30	30
8	Excel: 相対参照と絶対参照・表の編集・印刷設定				これまでの経験によってパソコンのスキル(技能)は、各人で異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作か身についていないと感じる場合は、授業中に作成したものを繰り返し操作して復習すること。(各自のスキルにより30分~1時間程度)				30	30
9	Excel: グラフ作成								30	30
10	Excel: 基本的な関数(MAX・MIN・COUNT・COUNTAなど)				30	30				
11	Excel: 基本的な関数(IF・AND・ORなど)・表示形式・日付関連の関数				30	30				
12	Excel: 課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)				30	30				
13	PowerPoint: スライドの作成・オブジェクトの挿入				30	30				
14	PowerPoint: アニメーションの設定・スライドショーの実施				30	30				
15	PowerPoint: 課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)				30	30				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード (課題作成、演習)									
教科書	『30時間アカデミック Office2024』 実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	課題は個別に添削をし、誤った課題を指導する。次回講義の際に総じて解説を行うこともある。授業内容や順序は、クラス全体の操作の進捗、使用教室により調整する場合がある。当科目は情報処理室で実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム (SkyClassesMng) を利用する。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-HAP-01					
	●	●									
科目名	解剖生理学				単位認定者			試験(筆記)	60	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20	%
						授業時間数	16 時間		受講態度	20	%
				授業形態	講義	授業回数	8 回				
授業の概要	<p>生命の最小単位は細胞であり、ヒトの身体は数十兆個の細胞から構成されている。人体を構成する要素について、細胞、組織、器官、体液等の仕組みや機能、また、体表からみる人体の構造についての基礎的な知識を修得する。また、生命を維持するために必要な仕組みに関して、栄養と代謝、ホメオスタシスの観点から学ぶ。人体の構造、構成、生命維持に係る基礎知識をもとに、人体を構成する各器官の基本的構造と機能及び相互関係について、系統的かつ総合的に学修する。</p>										
到達目標	<p>人体の正常な形態や構造を、ミクロからマクロに及ぶ観点で理解する。</p>										
学修者への期待等	<p>人体の構造と機能について学ぶことは救急救命士になる上で極めて重要になってくる。十分な理解とともに体得して欲しい。</p>										
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	解剖生理学(序論)				事前学修：予めプリントを配布するので見ておくこと			30	0		
2	細胞について				事前学修：予めプリントを配布するので見ておくこと			30	0		
3	組織について(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)				事前学修：予めプリントを配布するので見ておくこと			30	0		
4	血液①(成分と機能)				事前学修：予めプリントを配布するので見ておくこと			30	0		
5	血液②(血液凝固、血液型)				事前学修：予めプリントを配布するので見ておくこと			30	0		
6	神経系について				事前学修：予めプリントを配布するので見ておくこと			30	0		
7	循環器について				事前学修：予めプリントを配布するので見ておくこと			30	0		
8	消化器について				事前学修：予めプリントを配布するので見ておくこと			30	0		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード( )										
教科書	適宜、プリントを配布する。										
参考文献	適宜、参考資料を配付する。										
備考	小テスト・レポート課題は回収後、採点し、次回総括する。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地理理解力	EM-1-HAP-02			
	●	●							
科目名	人体構造と機能 I				単位認定者	平山 和美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		
						授業時間数	16 時間		
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	筋・骨格系、神経系、皮膚系について学修する。四肢の主な骨格筋や骨・関節、靭帯・腱、脊柱の構造等、筋・骨格系の構造と機能について学ぶ。神経系は、神経系の構成と役割、中枢神経系、末梢神経系、伝導路、自律神経系、脳循環、意識、反射等の知識を修得する。皮膚系では、皮膚を構成する表皮、真皮、皮下組織や皮膚付属器等の構造とその役割について学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 頭部の構造と機能が説明できる。</li> <li>2. 脳、体性、自律、及び末梢神経の機能が説明ができる。</li> <li>3. 主な神経症状が説明できる。</li> <li>4. 骨と筋肉、及び頸部の構造と機能が説明できる。</li> <li>5. 上肢、手、脊椎、骨盤、及び大腿の構造と機能が説明できる。</li> <li>6. 膝関節、下腿、及び足の構造と機能が説明できる。</li> <li>7. 皮膚の構造と機能が説明できる。</li> </ol>								
学修者への期待等	各講義の予習、および復習を行ってください。復習は講義後1～2日目に行ってください。特に復習の習慣をつけて下さい。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
1	頭部の構造と機能				事前学習：教科書67～70ページと72から74ページを読む		30	0	平山 和美
2	中枢神経系・脳循環				事前学習：教科書70～72ページと78～80ページを読む		30	0	
3	末梢神経（脳神経・脊髄神経）・伝導路・自律神経系				事前学習：教科書74～79ページを読む		30	0	
4	意識障害・反射・神経系総論				事前学習：教科書80～82ページを読む		30	0	
5	解剖学総論・骨の構造と機能、体幹の骨、四肢の骨				事前学修：教科書58～66ページと138～144ページの予習		60	0	川岸 久太郎
6	骨学実習				事前学習：からだの地図帳を用いて全身の骨を確認しておく 事後学習：1/2回の復習		60	30	
7	関節の構造と機能、筋の構造と機能および運動				事前学修：教科書138～144ページを読む		60	0	
8	皮膚の構造と機能				事前学修：教科書145～146ページを読む 事後学修：3/4回の復習		30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（骨学実習）								
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『新版からだの地図帳』佐藤達夫監修、講談社								
参考文献	資料の配布を行うので、その内容に付いて良く学修して下さい。								
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、講義内容の理解と修得を高める。								

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

平山：脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。  
川岸：脳神経外科の医師及び解剖学教員として30年以上の経験を生かして、救急救命士に必要な解剖学的知識を理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-HAP-03				
	●	●								
科目名	人体構造と機能Ⅱ				単位認定者	田林 暁一		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	呼吸系、消化系、循環系について学修する。呼吸系は大きく肺系(気道系、肺胞系)と胸郭系(肋骨系、横隔膜系、腹膜系)に分かれている。呼吸系の構成と役割、気道、胸郭、肺、肺胞でのガス交換、血液での酸素の動き、呼吸の調節等についての知識を修得する。消化系については、消化器、口腔・咽頭、消化管、肝臓・胆道系、膵臓、腹膜・腹腔等について学ぶ。循環系は血液を送り出し、身体のすみずみまで酸素、栄養素やホルモンなどを搬送し、二酸化炭素、代謝産物などを運び去ることにより、生体の恒常性を保ち、生命維持のための重要な役割を果たしている。循環系の構成と役割、心臓、脈管、循環の制御についての基礎的な知識を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気道と肺の構造と機能が説明できる。</li> <li>2. 肺循環と呼吸運動が説明できる。</li> <li>3. 呼吸の仕組み、呼吸機能、及び酸と塩基について説明ができる。</li> <li>4. 消化系(腹壁、食道、胃十二指腸、腸、肝臓、及び膵臓)の構造と機能が説明できる。</li> <li>5. 上下消化管検査、及びピロリ菌検査について説明ができる。</li> <li>6. 単径部の構造が説明できる。</li> <li>7. 循環系(心臓、及び血管)の構造と機能が説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	各講義の予習、および復習を行ってください。復習は講義後1~2日目に行ってください。特に復習の習慣をつけて下さい。復習小テストを実施する。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	気道、及び肺の構造と機能			事前学修：第1回講義 内容の予習 事後学修：第1回講義 内容の復習		30	30	西條 芳文		
2	肺循環、及び呼吸運動			事前学修：第2回講義 内容の予習 事後学修：第2回講義 内容の復習		30	30			
3	呼吸の仕組み、呼吸機能、及び酸と塩基			事前学修：第3回講義 内容の予習 事後学修：第3回講義 内容の復習		30	30			
4	消化系(腹壁、及び食道)の構造と機能、上部消化管の検査 反転授業			事前学修：第4回講義 内容の予習 事後学修：第4回講義 内容の復習		30	30	田林 暁一		
5	ピロリ菌検査法、消化系(胃、十二指腸、肝臓、及び膵臓)の構造と機能 反転授業			事前学修：第5回講義 内容の予習 事後学修：第5回講義 内容の復習		30	30			
6	消化系(小腸、大腸、及び直腸)の構造と機能、下部消化管の検査、単径部の構造 反転授業			事前学修：第6回講義 内容の予習 事後学修：第6回講義 内容の復習		30	30			
7	循環系(心臓)の構造と機能			事前学修：第7回講義 内容の予習 事後学修：第7回講義 内容の復習		30	30	西條 芳文		
8	血管系の構造と機能			事前学修：第8回講義 内容の予習 事後学修：第8回講義 内容の復習		30	30			
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(反転授業)									
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版									
参考文献	資料の配布を行うので、その内容について良く学修して下さい。									
備考	田林：UNIPA上に送信された資料は各自、コンピューターにダウンロードしてきてください。授業中に施行した小テストは授業中に解答・解説を行う。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

田林・西條：医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて呼吸、消化器、循環、及び血管の構造と機能について講義する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

<b>科目ナンバリング</b>
EM-1-HAP-04

科目名	人体構造と機能Ⅲ				単位 認定者	小野寺 健		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			

**授業の概要**  
生殖系、内分泌系、血液・免疫系、泌尿系、感覚系について学修する。生殖系は、男性生殖器と女性生殖器、性周期の知識を修得する。内分泌系では、内分泌と外分泌、内分泌の器官とその役割について、血液・免疫系では、血液、血球、血漿、血液型、骨髄、脾臓、止血と凝固、免疫について学ぶ。泌尿系では、腎臓や尿路等、泌尿系を構成する器官とその役割、尿生成の過程について、感覚系では、感覚系の構成と役割、視覚、聴覚・平衡感覚、嗅覚、味覚、体性感覚等の知識を身につける。

- 到達目標**
1. 泌尿器系、及び生殖系構造と機能が説明できる。
  2. 内分泌系の構造と機能が説明できる。
  3. 視覚器官の構造と機能が説明できる。
  4. 血液の成分と機能が説明できる。
  5. 出血と止血について説明ができる。視覚器官の構造と機能が説明できる。
  6. 皮膚、及び皮膚感覚（触覚、痛覚、圧覚、温度覚）の構造と機能が説明できる。
  7. 耳、鼻、咽頭、及び耳鼻咽頭感覚（聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）の構造と機能が説明できる。

**学修者への期待等**  
各講義の予習、及び復習を行ってください。復習は講義後1～2日目に行ってください。特に復習の習慣をつけて下さい。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	泌尿器系の構造と機能	事前学修：第1回講義 内容の予習 事後学修：第1回講義 内容の復習	30	30	小野寺 健
2	泌尿器系、及び生殖器系の構造と機能	事前学修：第2回講義 内容の予習 事後学修：第2回講義 内容の復習	30	30	
3	内分泌系の構造と機能	事前学修：第3回講義 内容の予習 事後学修：第3回講義 内容の復習	30	30	
4	生体の防御機構、及び視覚器官の構造と機能	事前学修：第4回講義 内容の予習 事後学修：第4回講義 内容の復習	30	30	
5	血液の成分と機能	事前学修：第5回講義 内容の予習 事後学修：第5回講義 内容の復習	30	30	皆川 忠徳
6	出血と止血の病態	事前学修：第6回講義 内容の予習 事後学修：第6回講義 内容の復習	30	30	
7	皮膚、及び皮膚感覚（触覚、痛覚、圧覚、温度覚）の構造と機能	事前学修：第7回講義 内容の予習 事後学修：第7回講義 内容の復習	30	30	高橋 隼也
8	耳、鼻、咽頭、及び耳鼻咽頭感覚（聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）の構造と機能	事前学修：第8回講義 内容の予習 事後学修：第8回講義 内容の復習	30	30	橋本 省

**アクティブ・ラーニング**  
該当なし  
該当あり：キーワード（ ）

**教科書**  
『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版

**参考文献**  
資料の配布を行うので、その内容について良く学修して下さい。

**備考**  
講義内容の学修を授業以外でも行わせ、講義内容の理解と修得を高める。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-PDR-01				
	●	●								
科目名	薬理学				単位認定者	柳澤 輝行		試験(筆記)	85 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	5 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
				授業回数			8 回			
授業の概要	薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。総論では、薬物の作用機序、薬物体内動態、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取扱い、管理、投与方法について学ぶ。各論では、様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について、作用機序、特徴、副作用を理解する。また、救急救命処置に用いられる薬剤や注意を要する常用薬、重要な静脈内投与薬について、それぞれの薬理作用、使用方法、注意点を学修する。									
到達目標	救命救急の現場に出る前の基礎的な内容を薬理学と病態の原理原則からも理解し身につける。									
学修者への期待等	事前に教科書を熟読して、練習問題に目をとおしておくこと。救急の現場で必須の中毒学は薬理学の関連領域であり、化学物質や有害物質に対するセンスも磨く。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	薬理学総論 1【Chapter1】 作用機序、受容体、濃度反応曲線、情報伝達系				事前学修：作用機序：分子から細胞レベルまで、受容体、濃度反応曲線、情報伝達系			60	0	
2	薬理学総論 2【Chapter1】 治療機序、薬物動態、薬物療法、副作用 等				事前学修：治療機序：細胞から生体レベルまで、薬物動態、薬物療法、副作用、薬物の取扱い、管理、投与方法			60	0	
3	末梢神経系に作用する薬【Chapter2】				事前学修：自律神経系薬総論、交感神経系薬、副交感神経系薬、アセチルコリン受容体、筋弛緩薬、局所麻酔薬			60	0	
4	中枢神経系に作用する薬【Chapter3】				事前学修：中枢神経系薬総論、全身麻酔薬、抗不安薬、抗てんかん薬、鎮痛薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬（気分安定薬）、パーキンソン病・認知症治療薬、薬物乱用			60	0	
5	循環器系に作用する薬 1【Chapter4】				事前学修：循環器系概要、動脈硬化、血管拡張薬、脳血管疾患治療薬、高血圧と降圧薬、虚血性心疾患治療薬、心不全治療薬			60	0	
6	循環器系に作用する薬 2、体液・血液系に作用する薬【Chapter4】				事前学修：抗不整脈薬、利尿薬、体液と輸液、貧血治療薬、造血因子、止血薬、抗血栓薬			60	0	
7	呼吸器系に作用する薬、消化器系に作用する薬【Chapter5】				事前学修：抗ヒスタミン薬、気管支喘息治療薬、胃・十二指腸潰瘍治療薬、催吐薬、制吐薬、腸に作用する薬			60	0	
8	代謝・内分泌系疾患治療薬【Chapter6】				事前学修：糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬、肥満治療薬、痛風治療薬、骨粗鬆症治療薬、視床下部・下垂体ホルモン			60	0	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『休み時間のワークブック薬理学』柳澤輝行／小橋史・著、講談社									
参考文献	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「なぜ薬理学を学び、教えるのか」URL <a href="http://hdl.handle.net/10097/53883">http://hdl.handle.net/10097/53883</a> 、柳澤輝行									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-PDR-02			
	●	●							
科目名	病理学				単位認定者	三木 康宏		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
				授業形態	講義	授業時間数	16 時間		
						授業回数	8 回		
授業の概要	ヒトは、生態の構造、機能や代謝が様々な障害因子により正常範囲から逸脱した状態、すなわち病気になる。病理学とは、病気になった原因や発生機序を解明し、病気の診断を確定したり、患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを研究する学問である。救急救命の現場で必要となる、疾患、細胞傷害、炎症、循環障害、腫瘍、損傷と治癒に関する知識を身につけ、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようにする。								
到達目標	まず病理学とはどのようなものかを理解する。次に病理学的用語を記憶し、重要な疾患を病理学的視点から説明できるようにする。								
学修者への期待等	授業は教科書の内容に沿い、覚えておくべき部分は授業中に指示するので、しっかり復習すること。								
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	病理学とはなにか／病気の発生要因(病因)について／細胞の増殖と生涯について				事前学修：教科書第1章、第2章を読む。 事後学修：プリントを復習する。			90	30
2	環境に対する細胞組織の適応について				事前学修：教科書第3章、第10章(p.119-121)を読む。 事後学修：プリントを復習する。			90	30
3	生体防御反応としての炎症について				事前学修：教科書第5章を読む。 事後学修：プリントを復習する。			60	30
4	免疫の基礎と疾患について				事前学修：教科書第7章を読む。 事後学修：プリントを復習する。			90	30
5	腫瘍：良性と悪性との鑑別とその発生について				事前学修：教科書第9章を読む。 事後学修：プリントを復習する。			90	30
6	遺伝子と疾患について				事前学修：教科書第8章を読む。 事後学修：プリントを復習する。			60	30
7	循環障害：体液の廻りと滞りについて				事前学修：教科書第4章を読む。 事後学修：プリントを復習する。			60	30
8	これまでの講義を振り返り、病理学を再考する				事前学修：日本人の死因の年次推移に関する資料をから、その病因を考える。 事後学修：プリントを復習する。			60	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード( )								
教科書	『シンプル病理学』 笹野公伸ほか、南江堂								
参考文献	なし								
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-PDR-03				
	●	●								
科目名	微生物学				単位認定者	岩間 正典		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	自然界には、細菌、真菌、寄生虫、ウイルス等あらゆる種類の微生物が生息している。多くの病原微生物が、ヒトや環境とどのように関わり合いながら、どのようにしてヒトに感染症を引き起こすのかを学修する。感染症の成り立ちについて、感染源、感染経路、宿主免疫と感染等の観点から学ぶ。また、病原性微生物の薬剤耐性についても理解する。救急救命の現場で、感染を防ぐための土台となる微生物学的基礎知識を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染症の原因となる病原微生物をあげ、それぞれの特徴について説明できる。</li> <li>2. 微生物の形態や生理機能を理解し、病原性について説明できる。</li> <li>3. 感染源・感染経路・感受性宿主の関係を理解し、感染予防策について説明できる。</li> <li>4. 消毒、殺菌、滅菌方法を理解し、その適応と注意点を説明できる。</li> <li>5. 病原微生物の抗菌剤への耐性機構を理解し、耐性菌について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	微生物学では、微生物が持つ生命現象そのものを理解する生物学的な側面と、感染症を理解する医学微生物学固有の側面とがあります。また各論については、必要な情報を厳選することに努力しますが、見たことも聞いたこともない微生物の名前や用語が多数出てくると思います。意欲をもって授業に望んでください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	微生物学総論 ①感染とは何か、②対象とする微生物について、③微生物の分類 細菌について ①細菌の構造、②人の常在菌				事前学修：あらかじめ教科書第1章「感染と発症」を読んでおくこと。				30	0
2	細菌学各論Ⅰ グラム陽性菌				事後学修：教科書の順番とは少し異なるので注意すること。 主なグラム陽性菌について復習しておくこと。				0	30
3	細菌学各論Ⅱ グラム陰性菌				事後学修：主なグラム陰性菌について復習しておくこと。次回授業の最初に細菌についての小テストを実施します。				0	60
4	ウイルス学Ⅰ ①ウイルスの増殖と一般性状 ②DNAウイルス ③RNAウイルス				事後学修：授業で取り上げたウイルスについて復習しておくこと。				0	30
5	ウイルス学Ⅱ ①RNAウイルス続き、②レトロウイルス ウイルス周辺 ①ウイロイド、②プリオン *備考欄に基づき、原因についての討論の時間を設けます(反転授業)				事前学修：プリオン病について事前に調査し、考えをまとめておくこと。 事後学修：授業で取り上げたウイルス等について復習しておくこと。次回授業の最初にウイルスについて的小テストを実施します。				90	60
6	真菌・原虫 ①真菌による疾患、②原虫・寄生虫による疾患 抗菌薬・抗ウイルス薬、薬剤耐性				事後学修：主な真菌、原虫・寄生虫による感染症について復習しておくこと。				0	60
7	免疫とワクチン 滅菌と消毒				事後学修：日本で実施されているワクチンについてまとめること。主な滅菌法と消毒薬はその有効範囲についてまとめること。				0	60
8	感染症法 感染経路と感染制御				事後学修：感染症法1類～3類感染症をしっかりと覚えること。 全回の授業内容をきちんと整理して試験に臨んでください。				0	60
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(反転授業)									
教科書	『感染制御学・微生物学』小林寅詰編、メヂカルフレンド社									
参考文献	なし									
備考	*事前に各自で「20世紀末にイギリスで起こった牛海綿状脳症及び変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の原因は何だったのか、どこがいけなかったのか。」について調べてから授業に臨んでください。意見を発表して討論をしてもらいます。 小テストは次回返却して解説します。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-HSS-01				
	●	●			●					
科目名	社会保障論				単位 認定者	青山 美智子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト等)	15 %
						授業時間数	16 時間		授業後課題	15 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療を取り巻く環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。									
到達目標	社会保障制度の体系と概要を理解し説明できる。 統計データからわが国の社会的背景と医療保障制度の関係性を理解し説明できる。 社会生活の中での社会保障の役割について理解し説明できる。									
学修者への期待等	社会保障関連の統計データ、新聞、ニュースに対して、日頃から関心をもつことが望ましい。 社会変遷との関連性を理解し、社会保障制度を複眼的な考え方で理解することが望ましい。 国家試験対策も併せて行うので積極的な授業参加を期待する。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	社会保障の構成(全体像)の把握、社会保障の理念、憲法第25条、わが国の人口構造と人口ピラミッド、少子高齢社会、平均寿命、出生率、一次資料の活用について <b>I. 保健(険)医療制度のしくみと現状</b> <b>【A. 健康と公衆衛生】</b> 1. 健康とは、				事前学修：シラバス内容を確認する 事後学修：配布レジュメを読み込む 社会保障の全体像を把握する 本時の課題を完成させる			30	30	
2	2. 公衆衛生とは、3. 公衆衛生に関係する行政組織、4. 国際保健 <b>【B. 医療を取り巻く環境】</b> 1. 人口と少子高齢化、2. 死因の状況、3. 生活習慣と健康の状況、4. 国民の受療状況、5. 感染症の状況				事前学修：第2章-1A 本時の単元を読んでくる 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる			30	30	
3	<b>【C. 医療供給体制】</b> 1. 医療法、医療圏、医療計画、病床の種類、 2. 保険医療機関(病院・診療所)、病院機能の分類、 3. 医療従事者				事前学修：第2章-1C 本時の単元を読んでくる 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる			30	30	
4	<b>【D. さまざまな保健衛生】</b> 1. 食品衛生、2. 環境衛生3. 労働衛生、4. 学校保健、 5. 母子保健、6. 地域保健、7. 精神保健 <b>II. 社会保障と社会福祉</b> <b>【A. 社会保障とその仕組み】</b> 1. 社会保障とその理念、2. 日本の社会保障制度、3. 社会保障給付費、本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修：第2章-1D・第2章-2A 本時の単元を読んでくる 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる			30	30	
5	<b>【B. 社会保険】</b> (1)医療保険制度、(2)労災保険制度、(3)雇用保険制度、(5)介護保険制度、(4)年金保険制度 本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修：第2章-2B 本時の単元を読んでくる 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる			30	30	
6	<b>【C. 社会福祉と公的扶助】</b> 1. 社会福祉 (1)児童福祉、(2)母子・父子・寡婦福祉等 本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修：第2章-2C 本時の単元を読んでくる 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる			30	30	
7	(3)障害者福祉、(4)高齢者福祉、 〔地域包括ケアシステム〕システムのしくみ 〔老人保健〕後期高齢者保健医療制度 本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修：本時の単元を読んでくる 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる			30	30	
8	2. 公的扶助 1. 貧困とは、2. 生活保護法の実施体制、3. 生活保護の種類と内容、4. 生活保護の原理原則 本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修：本時の単元を読んでくる 事後学修：図表やデータ、資料を読む 本時の課題を完成させる			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード( )									
教科書	『救急救命士標準テキスト』改訂第11版 救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版									
参考文献	一次資料を確認しながら進める。文献は必要に応じて授業内で紹介する。									
備考	毎時 授業資料を配布する。授業内容や順序は単元の関連性により調整する場合がある。 小テストや国試対策は適宜行う。小テストの解答・解説(フィードバック)はUNIPAに掲載するので必ず確認すること。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-IEM-01				
	●	●	●	●						
科目名	医学概論				単位認定者	堀口 雅司		試験(レポート)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講内課題	10 %
							授業時間数		20 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			10 回	
授業の概要	医学とは、人体の構造や機能、疾病について研究し、疾病を診断・治療・予防する方法を開発する学問であり、病気の予防や治療によって健康を維持、回復するために発展した様々な医療を包含している。「医学概論」では、「医学とは何か」に始まり、我が国の保険医療体制や各種制度の概要等について学ぶ。また、医学・医療の進歩とともに重視されるようになった「医の倫理」についても理解を深め、コメディカルスタッフとしての倫理観を養う。さらに、救急救命士の役割と関連する法令、救急救命士のストレスマネジメント等についても学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急医学の本質、科学的思考について説明できる。生命倫理、医の倫理、救急救命士の職業倫理と責務について説明できる。</li> <li>保健医療体制の仕組みと現状について説明できる。</li> <li>救急活動でのストレス反応とその対策について説明できる。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急医学の基礎となる科目です。</li> <li>事前にテキストや資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	人間と人間生活(身体、心、生活)				事前学修: 各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
2	科学的思考の基礎(科学的思考の必要性と項目)				事前学修: 各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
3	生命倫理と医の倫理(生命倫理に関する原則、ヒポクラテスの誓い等)				事前学修: 各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
4	生命倫理と医の倫理(傷病者の権利を守る立場から、救急救命士の職業倫理)				事前学修: 各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
5	保健医療制度の仕組みと現状(健康と公衆衛生、医療を取り巻く環境)				事前学修: 各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
6	保健医療制度の仕組みと現状(医療供給体制、さまざまな保健衛生)				事前学修: 各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
7	救急救命士に関連する法令(法令の基本、救急救命士法)				事前学修: 各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
8	救急救命士に関連する法令(医師法、保健師助産師看護師法、消防法、その他の法令)				事前学修: 各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
9	ストレスに対するマネジメント(救急活動でのストレス)				事前学修: 各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
10	ストレスに対するマネジメント(ストレスへの対応)				事前学修: 各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり: キーワード( )									
教科書	「救急救命士標準テキスト 改定第11版」救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版									
参考文献	「医の倫理と法」(改訂第2版) 森田泰彦 南江堂 「現代医学概論」(第3版) 柳澤信夫 医歯薬出版株式会社									
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>進捗状況や理解度に応じて順序等を変更する可能性がある。</li> <li>授業においては適宜フィードバック(ミニテスト・解説)を行う。</li> <li>受講内課題は授業後感想等(10%)で評価する。</li> </ul>									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
<ul style="list-style-type: none"> <li>救急救命士として25年間の実務経験を活用して、医療人としてのあり方、倫理、法律について教授する。</li> <li>救急隊長としての実務経験、公認心理師としての視点を活用して、救急救命士に関する法令・ストレスマネジメントなどを含めた心理学的な背景について教授する。</li> </ul>										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-IEM-02				
	●	●	●	●						
科目名	救急救命医療概論				単位認定者	堀口 雅司		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	<p>保険医療体制や各種制度についての知識を深め、救急搬送体制、救急医療機関の役割と要件、周産期・精神科・小児救急医療体制の役割、ドクターカー・ドクターヘリでの診療、メディカルコントロールの概念と具体的な内容等について学修する。また、消防機関における救急活動の流れや救急活動時のコミュニケーションについても学ぶ。救急救命士が担う救護体制について、実践的な知識を身につける。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院前救護体制とメディカルコントロールの概念及び内容について説明ができ、救急医療体制との関係性が説明できる。</li> <li>・テキスト内の各項目に記載されている分類表や図等を説明できる。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを熟読すること。単元の内容を整理して理解するようにしてください。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	救急業務の沿革				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
2	応急救護体制・救急搬送体制・病院前診療体制				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
3	救急受け入れ体制Ⅰ（医療機関について）				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
4	救急受け入れ体制Ⅱ（救急受け入れ体制の現状と課題）				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
5	メディカルコントロール				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
6	メディカルコントロールとプロトコル				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
7	消防機関における救急搬送体制Ⅰ（通報から医療機関搬送まで）				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
8	消防機関における救急搬送体制Ⅱ（搬送記録と関連機関）				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
9	救急業務の現状と課題				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
10	救急活動時のコミュニケーションⅠ（接遇とコミュニケーション）				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	救急活動時のコミュニケーションⅡ（インフォームドコンセントとDNAR）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
12	救急救命士に関連する法令Ⅰ（法令の基本・救急救命士法）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
13	救急救命士に関連する法令Ⅱ（救急救命士法）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
14	救急救命士に関連する法令Ⅲ（医療関係領域で関連する法律）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
15	救急救命士に関連する法令Ⅳ（行政関係領域で関連する法律）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
16	救急救命士の生涯教育	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
17	安全管理と事故対応	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
18	感染対策・感染症対策の実際	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
19	ストレスに対するマネジメント	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
20	救急救命医療概論まとめ（反転授業：救急医療体制）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	□該当なし ☑該当あり：キーワード（反転授業）			
<b>教科書</b>	「救急救命士標準テキスト 改訂第11版」救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版 「標準 多数傷病者対応MCLSテキスト」監修・一般社団法人日本災害医学会 編集・大友康裕 ぱーそん書房			
<b>参考文献</b>	「救急救命士国家試験対策問題集」 田中秀治（編集）文光堂			
<b>備考</b>	・進捗状況や理解度に応じて順序等を変更する可能性がある。・授業においては適宜フィードバック（ミニテスト・解説）を行う。・受講内課題は授業後感想等（10%）で評価する。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

・救急救命士として25年間の実務経験、公認心理師としての視点を活用して、必須事項を中心に授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-IEM-03				
	●	●		●	●					
科目名	救急救命処置概論				単位認定者	堀口 雅司		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
					講義		授業時間数		40 時間	受講態度
				授業形態		授業回数			20 回	
授業の概要	救急救命の現場では、一刻を争う傷病者に対応することもあれば、落ち着いた観察や搬送が可能なこともある。あらゆる傷病者に対する、観察、緊急度・重症度の判断、救急処置、使用できる薬剤の効果とその副作用、救急蘇生法、搬送等について学修する。救急救命の現場で冷静に適切な判断を下し、理論的な観察・評価に裏付けられた処置を行い、傷病者の命を救うための、実践的な知識や観察力・推測力を修得する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイタルサインの概念を説明し、具体的な項目を列挙できる。</li> <li>観察の方法について列挙し、それぞれについて説明できる。</li> <li>全身状態の観察すべき項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。</li> <li>局所の観察すべき項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。</li> <li>神経所見の観察項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。</li> <li>緊急度と重症度の概念、判断、目的、方法について説明できる。</li> <li>救急活動で使用する資器材を分類して列挙し、適応、種類、原理、構造、方法、評価、注意点について説明できる。</li> <li>救急救命士が行う処置の種類について列挙し、それぞれの適応、禁忌、方法と手順、評価、注意点、合併症などについて説明できる。</li> <li>救急蘇生法の概念と小児、成人、医療機関での救命処置について説明できる。</li> <li>在宅療法の概念、種類、発生し得る問題点、および観察時の注意点と対処法について説明できる。</li> <li>傷病者搬送の原則と注意点、搬送方法の適応と方法について説明できる。</li> </ul>									
学修者への期待等	・事前にテキストや資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	傷病者の観察(観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法)				事前学修:各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修:授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
2	傷病者の観察(全身状態の観察、外見、気道、呼吸、循環、意識)				事前学修:各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修:授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
3	意識状態に関する観察(JCS、GCS) 局所の観察(皮膚、頭部、顔面、頸部)				事前学修:各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修:授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
4	局所の観察(胸部、背部、腹部、鼠径部、会陰部、骨盤、手指、足趾、爪、各種病態の観察アルゴリズム)				事前学修:各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修:授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
5	神経所見の観察(運動機能、感覚、髄膜刺激症候、失語症と構音障害、脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法)緊急度・重症度判断(概念、目的、判断の基準)				事前学修:各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修:授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
6	資器材による観察(パルスオキシメータ、カプノメータ、聴診器、血圧計)				事前学修:各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修:授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
7	資器材による観察(心電図モニター、体温計、血糖測定器)				事前学修:各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修:授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
8	救急救命士が行う処置(処置の目的と意義、気道確保、気道異物除去、口腔内の吸引、正門上気道デバイスを用いた気道確保)				事前学修:各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修:授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
9	救急救命士が行う処置(気管挿管、気管吸引)				事前学修:各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修:授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	
10	救急救命士が行う処置(酸素投与、人工呼吸、胸骨圧迫)				事前学修:各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修:授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	救急救命士が行う処置（自動式心マッサージ器、電気ショック）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
12	救急救命士が行う処置（静脈路確保と輸液）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
13	救急救命士が行う処置（アドレナリンの投与、ブドウ糖の投与）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
14	救急救命士が行う処置（体位管理、体温管理）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
15	救急救命士が行う処置（止血、創傷処置、固定）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
16	救急救命士が行う処置（固定の方法と手順、産婦人科領域の処置）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
17	救急蘇生法（概要、歴史、成人に対する救急蘇生法、小児に対する救急蘇生法、医療機関での治療）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
18	在宅療法継続中の傷病者の処置（在宅療法の概要、在宅療法の種類と対応方法）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
19	傷病者搬送（搬送の目的と意義、手順、注意点、搬送経路の確認と指示、ボディメカニクス、体位変換、徒手搬送、器具を用いた搬送）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
20	傷病者搬送（搬送手順、ヘリコプターへの搬入と搬出、事故車両からの救出方法） 救急救命処置概論まとめ（反転授業：救急救命処置の実際）	事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（反転授業）			
<b>教科書</b>	「救急救命士標準テキスト 改定第11版」救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版 「救急処置スキルブック」〈上下巻〉（新訂第2版）田中秀治（総監修） 晴れ書房 「救急技術マニュアル」（6訂版）救急業務研究会 東京法令出版			
<b>参考文献</b>	「救急救命士国家試験対策問題集」 田中秀治（編集） 文光堂			
<b>備考</b>	・進捗状況や理解度に応じて順序等を変更する可能性がある。・授業においては適宜フィードバック（ミニテスト・解説）を行う。・受講内課題は授業後感想等（10%）で評価する。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

・救急救命士として25年間の実務経験を活用し、救急救命現場での冷静で適切な判断の基礎となる、医学的に体系化された救急救命処置について解説する。  
・傷病者の命を救うため、実践的な知識・観察力・臨床推論の重要性について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-01				
	●	●		●						
科目名	救急病態生理学				単位認定者	横山 重矢		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	<p>人体の器官等が、疾患(病気)によって異常や不全を起こすことで生じる生体機能の病的な変化を研究する学問を病態生理学といい、そのうちの救急疾患に関連の深い病態について扱うものを救急病態生理学という。呼吸不全、心不全、ショック、重症脳障害、心肺停止等について、正常な生理学、病態の発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。千差万別である救急救命の現場において、正確に疾患を把握するための知識を身につける。</p>									
到達目標	救急疾患に関係の深い病態に対する知識を得、生体の機能的変化を説明できるようになる。									
学修者への期待等	救急病態生理学ではなぜその症状がおこるのかを考えることが重要です。現場での緊急度重症度が比較的高い病態であるため、なぜその処置が必要になるのか等も含め理解を深めてください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	心停止①:心肺停止の概念、ウツタイン様式				事前学修:P.476~P.479を読んでおくこと 事後学修:配布資料等を用いて復習する。			30	30	
2	心停止②:心肺停止に至る病態、原因疾患				事前学修:P.479~P.481を読んでおくこと 事後学修:配布資料等を用いて復習する。			30	30	
3	心停止③:心肺蘇生中の循環、心拍再開後の病態				事前学修:P.481~P.484を読んでおくこと 事後学修:配布資料等を用いて復習する。			30	30	
4	心停止④:復習				事前学修:P.476~P.484を読んでおくこと 事後学修:小テストを用いて復習する。			30	30	
5	心不全①:総論				事前学修:P.458を読んでおくこと 事後学修:配布資料等を用いて復習する。			30	30	
6	心不全②:病態生理				事前学修:P.459、460を読んでおくこと 事後学修:配布資料等を用いて復習する。			30	30	
7	心不全③:症候、分類				事前学修:P.460~P.462を読んでおくこと 事後学修:配布資料等を用いて復習する。			30	30	
8	心不全④:復習				事前学修:P.458~P.462を読んでおくこと 事後学修:小テストを用いて復習する。			30	30	
9	ショック①:総論				事前学修:P.463、464を読んでおくこと 事後学修:配布資料等を用いて復習する。			30	30	
10	ショック②:各種ショックについて				事前学修:P.464~P.469を読んでおくこと 事後学修:配布資料等を用いて復習する。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	ショック③：ショックの傷病者に対する観察、処置	事前学修：P. 464～P. 469を読んでおくこと 事後学修：配布資料等を用いて復習する。	30	30
12	ショック④：復習	事前学修：P. 463～P. 469を読んでおくこと 事後学修：小テストを用いて復習する。	30	30
13	重症脳障害①：頭蓋内圧亢進	事前学修：P. 470～P. 472を読んでおくこと 事後学修：配布資料等を用いて復習する。	30	30
14	重症脳障害②：脳ヘルニア	事前学修：P. 472、473を読んでおくこと 事後学修：配布資料等を用いて復習する。	30	30
15	重症脳障害③：部位別の脳機能障害	事前学修：P. 473～P. 475を読んでおくこと 事後学修：配布資料等を用いて復習する。	30	30
16	重症脳障害④：脳機能障害に伴う症状と病態	事前学修：P. 475を読んでおくこと 事後学修：配布資料等を用いて復習する。	30	30
17	呼吸不全①：総論	事前学修：P. 454、455を読んでおくこと 事後学修：配布資料等を用いて復習する。	30	30
18	呼吸不全②：低酸素血症の発生機序	事前学修：P. 455、456を読んでおくこと 事後学修：配布資料等を用いて復習する。	30	30
19	呼吸不全③：高二酸化炭素血症の発生機序	事前学修：P. 456、457を読んでおくこと 事後学修：配布資料等を用いて復習する。	30	30
20	呼吸不全④：換気障害の種類	事前学修：P. 457を読んでおくこと 事後学修：配布資料等を用いて復習する。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版			
<b>参考文献</b>	『新版 からだの地図帳』佐藤達夫、講談社			
<b>備考</b>	配布資料や小テストは授業内でフィードバックします。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は消防職員として5年以上の実務経験と、救急救命士資格を有しており、その経験を活かして実習や現場での活動に繋げることができるような授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-02				
	●	●		●						
科目名	救急症候学 I				単位認定者	横山 亜矢		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
					授業形態		講義		授業時間数	40 時間
							授業回数			20 回
授業の概要	傷病者本人が自覚する心身の異常を症状または自覚症状といい、他者によって観察される客観的な所見を徴候または他覚的所見という。症状と徴候をあわせたものが症候であり、救急症候学は救急医療に関係の深い症候を扱う臨床医学のひとつである。「救急症候学 I」では、主に意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺、めまい等について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場において遭遇することの多い症候に関する知識を身につける。									
到達目標	救急医療に必要な症候を理解し、個別疾患へと結びつける観察ができ、重症度・緊急度評価ができる。									
学修者への期待等	事前にテキストを熟読し、医療用語等を予習してください。授業で学んだ内容を理解し自分のものとしてください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	意識の概要・意識をつかさどるもの				事前学修：P. 486を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。				30	30
2	意識障害の原因・随伴症状				事前学修：P. 486～P. 489を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。				30	30
3	意識障害の判断を要する病態、緊急度・重症度判断				事前学修：P. 489～P. 490 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。				30	30
4	意識障害における現場活動、医療機関選定、病院搬送				事前学修：P. 490を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。				30	30
5	頭痛				事前学修：P. 491を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。				30	30
6	頭痛の発症機序、分類、原因疾患				事前学修：P. 491、492を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。				30	30
7	頭痛の発症状況、性状、随伴症候				事前学修：P. 492～P. 494を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。				30	30
8	頭痛における緊急度・重症度の判断、現場活動				事前学修：P. 494、495を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。				30	30
9	けいれんとてんかん				事前学修：P. 496～P. 501を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。				30	30
10	けいれんの定義・概念、病態				事前学修：P. 496を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	けいれんの分類、原因疾患	事前学修：P. 497、498を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。	30	30
12	けいれんの随伴症状、広義の痙攣、判断を要する病態	事前学修：P. 499、500を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。	30	30
13	けいれんにおける緊急度・重症度判断と現場活動	事前学修：P. 500、501を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。	30	30
14	運動麻痺	事前学修：P. 502～P. 505を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。	30	30
15	運動麻痺の定義・概念、発生機序、分類	事前学修：P. 502、503を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。	30	30
16	運動麻痺の原因疾患、随伴症状、判断を要する病態	事前学修：P. 503～P. 505を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。	30	30
17	運動麻痺における緊急度・重症度判断と現場活動	事前学修：P. 505を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。	30	30
18	めまい	事前学修：P. 506～P. 509を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。	30	30
19	めまいの定義・概念、発症機序分類、随伴症状	事前学修：P. 506、507を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。	30	30
20	めまいの緊急度・重症度判断と現場活動	事前学修：P. 508、509を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布された資料の確認を行うこと。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版			
<b>参考文献</b>	なし			
<b>備考</b>				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は消防職員として5年以上の実務経験と、救急救命士資格を有しており、その経験を活かして実習や現場での活動に繋げることができるような授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-03				
	●	●		●						
科目名	救急症候学Ⅱ				単位認定者	田中 耕一		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態		講義		授業時間数	40 時間
				授業回数			20 回			
授業の概要	救急救命士が傷病者に接触したときに、最初に得る情報のひとつが症候であり、その理解は救急救命の現場を組み立てるうえで非常に重要である。「救急症候学Ⅱ」では、主に呼吸困難、咯血、一過性意識消失と失神、胸痛、動悸等について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場において遭遇することの多い症候に関する知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸困難の症候・原因を理解し、緊急度・重症度の判断および現場対応の要点を説明できる。</li> <li>2. 咯血の症候・原因を理解し、緊急度・重症度の判断および現場対応の要点を説明できる。</li> <li>3. 一過性意識消失および失神の症候・原因を理解し、緊急度・重症度の判断および現場対応の要点を説明できる。</li> <li>4. 胸痛の症候・原因を理解し、緊急度・重症度の判断および現場対応の要点を説明できる。</li> <li>5. 動悸の症候・原因を理解し、緊急度・重症度の判断および現場対応の要点を説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	今日の救急活動の重要性を十分に認識し、どのような症例に対しても冷静かつ迅速・的確に緊急度および重症度を判断し、適切な現場対応ができるよう、必要な知識と技術を身につけてください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	呼吸困難① 定義・概念、分類				事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「呼吸困難」(P510～514)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「呼吸困難」(P510～511)を読んで理解しておくこと。				30	30
2	呼吸困難② 原因疾患				事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「呼吸困難」(P510～514)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「呼吸困難」(P511～512)を読んで理解しておくこと。				30	30
3	呼吸困難③ 随伴症候				事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「呼吸困難」(P510～514)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「呼吸困難」(P512～513)を読んで理解しておくこと。				30	30
4	呼吸困難④ 緊急度・重症度の判断、現場活動				事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「呼吸困難」(P510～514)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「呼吸困難」(P513～514)を読んで理解しておくこと。				30	30
5	咯血① 定義・概念、分類、咯血による影響				事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「咯血」(P515～517)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「咯血」(P515)を読んで理解しておくこと。				30	30
6	咯血② 原因疾患				事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「咯血」(P515～517)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「咯血」(P515～516)を読んで理解しておくこと。				30	30
7	咯血③ 判別を要する病態				事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「咯血」(P515～517)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「咯血」(P516)を読んで理解しておくこと。				30	30
8	咯血④ 緊急度・重症度の判断、現場活動				事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「咯血」(P515～517)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「咯血」(P517)を読んで理解しておくこと。				30	30
9	呼吸困難、咯血の復習(課題のプレゼンテーション)、効果確認				事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「呼吸困難～咯血」(P510～517)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「呼吸困難～咯血」(P510～517)を読んで理解しておくこと。				30	30
10	一過性意識消失と失神① 定義・概念、原因				事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「一過性意識消失と失神」(P518～520)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「一過性意識消失と失神」(P518)を読んで理解しておくこと。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	一過性意識消失と失神② 原因	事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「一過性意識消失と失神」(P518～520)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「一過性意識消失と失神」(P518～520)を読んで理解しておくこと。	30	30
12	一過性意識消失と失神③ 緊急度・重症度の判断	事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「一過性意識消失と失神」(P518～520)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「一過性意識消失と失神」(P520)を読んで理解しておくこと。	30	30
13	一過性意識消失と失神④ 現場活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「一過性意識消失と失神」(P518～520)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「一過性意識消失と失神」(P520)を読んで理解しておくこと。	30	30
14	胸痛① 定義・概念、発症機序	事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「胸痛」(P521～524)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「胸痛」(P521)を読んで理解しておくこと。	30	30
15	胸痛② 原因疾患	事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「胸痛」(P521～524)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「胸痛」(P521～523)を読んで理解しておくこと。	30	30
16	胸痛③ 緊急度・重症度の判断、現場活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「胸痛」(P521～524)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「胸痛」(P523～524)を読んで理解しておくこと。	30	30
17	動悸① 定義・概念、発症機序、原因疾患	事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「動悸」(P525～527)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「動悸」(P525)を読んで理解しておくこと。	30	30
18	動悸② 随伴症候	事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「動悸」(P525～527)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「動悸」(P526)を読んで理解しておくこと。	30	30
19	動悸③ 緊急度・重症度の判断、現場活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「動悸」(P525～527)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「動悸」(P526～527)を読んで理解しておくこと。	30	30
20	一過性意識消失と失神、胸痛、動悸の復習(課題のプレゼンテーション)、効果確認	事前学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「一過性意識消失と失神～動悸」(P518～527)を読んでおくこと。 事後学修：テキスト第Ⅲ編第4章の「一過性意識消失と失神～動悸」(P518～527)を読んで理解しておくこと。	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(プレゼンテーション、効果確認)			
教科書	『救急救命士標準テキスト 改訂第11版』救急救命士標準テキスト編集委員会編集、へるす出版社 『新版からだの地図帳』佐藤達夫監修、講談社			
参考文献	なし			
備考	*授業内で効果確認を実施する。			

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、消防職員として37年にわたる実務経験と救急救命士資格を有しています。これまでの経験および研究活動を活かし、学生が救急症候学への理解を深め、救急医療を学ぶ上で必要となる基礎医学の知識が身につくような授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-04				
	●	●		●						
科目名	救急症候学Ⅲ				単位認定者	横山 亜矢		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
							授業時間数		40 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	救命救急の現場では、疾患単位の知識と症候学の知識の両者がそろって初めて傷病者に対する理論的で確実な対応が可能となる。特に、腹痛をきたす疾患はきわめて多く、腹痛症状は救急搬送において最も頻度の高い症状のひとつであり、各所見を観察し、適切な処置を施す必要がある。「救急症候学Ⅲ」では、主に腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温上昇等について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場において遭遇することの多い症候に関する知識を身につける。									
到達目標	症候の理解を深め、バイタルサインや観察と結びつけられ一つの症候にとらわれることなく、病態の緊急度・重症度を説明できる。									
学修者への期待等	頻度の高い症状のため、テキストを熟読し内容を整理して理解を深めてください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	消化系臓器について				事後学修：テキスト第1章の「消化系」を復習する				60	0
2	腹痛① 発症機序				事前学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み予習する 事後学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み復習をする				30	30
3	腹痛② 原因疾患、部位				事前学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み予習する 事後学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み復習をする				30	30
4	腹痛③ 既往歴				事前学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み予習する 事後学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み復習をする				30	30
5	腹痛④ 随伴症候				事前学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み予習する 事後学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み復習をする				30	30
6	腹痛⑤ 緊急度・重症度の判断、現場活動				事前学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み予習する 事後学修：テキスト第4章の「腹痛」を読み復習をする				30	30
7	吐血・下血① 定義・概念、原因疾患				事前学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み復習する				30	30
8	吐血・下血② 病態				事前学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み復習する				30	30
9	吐血・下血③ 判別が必要な病態、緊急度・重症度の判断				事前学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み復習する				30	30
10	吐血・下血④ 現場活動				事前学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「吐血・下血」を読み復習する				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	腰痛・背部痛① 定義・概念、原因疾患	事前学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み復習をする	30	30
12	腰痛・背部痛② 緊急度・重症度の判断	事前学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み復習をする	30	30
13	腰痛・背部痛③ 現場活動	事前学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「腰痛・背部痛」を読み復習をする	30	30
14	体温の役割について	事前学修：テキスト152、645、822ページを読み予習をする 事後学修：テキスト152、645、822ページを読み復習をする	30	30
15	体温上昇① 定義・概念、発症機序	事前学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み復習をする	30	30
16	体温上昇② 病態、発熱の分類と種類	事前学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み復習をする	30	30
17	体温上昇③ 原因疾患	事前学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み復習をする	30	30
18	体温上昇④ 緊急度・重症度の判断、現場活動	事前学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み予習をする 事後学修：テキスト第4章の「体温上昇」を読み復習をする	30	30
19	救急症候学Ⅲのまとめ① 腹痛、吐血・下血	事前学修：腹痛、吐血・下血の項目を再復習する	60	0
20	救急症候学Ⅲのまとめ② 腰痛・背部痛、体温上昇	事前学修：腰痛・背部痛、体温上昇の項目を再復習する	60	0
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版			
<b>参考文献</b>	なし			
<b>備考</b>				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

<b>科目ナンバリング</b>
EM-2-DEM-01

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●	●	●	

科目名	疾病救急医学 I				単位 認定者	佐藤 武諭毅		評価の方法	試験(筆記)	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	10 %
						授業時間数	40 時間			
				授業形態	講義	授業回数	20 回			

**授業の概要**

救急救命の現場で遭遇することの多い疾患について学修する。特に、脳血管障害は、循環系疾患とともに緊急度・重症度が高い疾患のひとつであり、救護の現場から医療機関の治療まで一連の流れが重要となる。また、わが国における全死亡数に占める肺炎の割合は高く、肺炎リスクの高い高齢者の増加、すなわち高齢化により、呼吸器系疾患に関する重要性も高い。さらに、循環系疾患は、状態が急激に変化し、致命的となり得ることや、早期に専門的治療を要することが特徴として挙げられ、救急救命の現場や搬送中に即座の判断が必要になることもあり、救急救命士に求められるものは大きい。「疾病救急医学 I」では、神経系疾患、呼吸系疾患、循環系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。

**到達目標**

神経系の救急疾患で主要な病名、症候をあげ、それぞれ説明できる。神経系疾患の傷病者に共通する現場活動について説明できる。脳血管障害と脳卒中の概念、疫学、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。呼吸器疾患の主要な病名、症候をあげ、それぞれ説明できる。呼吸器疾患における観察、緊急度・重症度の判断、主な原因疾患、症候について説明できる。主な呼吸器疾患の概念、疫学、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。循環器疾患の主要な病名、症候をあげ、それぞれ説明できる。心臓突然死の概念、疫学、原因疾患について説明できる。主な循環器疾患の概念、疫学、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。主な不整脈を列挙し、それぞれの病態について説明できる。主な不整脈の典型的な心電図を判読できる。

**学修者への期待等**

事前にテキストやUNIPAへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	神経系疾患 総論 (疫学と救急医療における意義、神経系疾患の主要症候、基本的対応)	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で復習すること。 事後学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で復習すること。	30	30
2	脳血管障害 (概要、脳梗塞、一過性脳虚血発作、くも膜下出血、脳出血)		30	30
3	中枢神経系の感染症 (髄膜炎、脳炎、脳症)		30	30
4	末梢神経疾患 (ギランバレー症候群、糖尿病性ニューロパチー)		30	30
5	その他の中枢神経疾患 (てんかん、脳腫瘍、変性疾患)		30	30
6	呼吸器疾患 総論 (疫学と救急医療における意義、呼吸系疾患の主要症候、基本的対応)		30	30
7	上気道の疾患 (急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍)		30	30
8	下気道と肺胞の疾患 (気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、無気肺、気管支拡張症)		30	30
9	感染症 (肺炎、肺結核、急性上気道炎) 胸膜疾患 (気胸、胸膜炎)		30	30
10	その他の呼吸器疾患 (過換気症候群、肺癌、急性呼吸促拍症候群、間質性肺炎)		30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	循環系疾患 総論（疫学と救急医療における意義、循環系疾患の主要症候、基本的対応）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で復習すること。 事後学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で復習すること。	30	30
12	動脈硬化（概念、病態）虚血性心疾患（概念、急性冠症候群、急性心筋梗塞）		30	30
13	虚血性心疾患（不安定狭心症、安定狭心症）		30	30
14	心筋疾患（心筋症、心筋炎）心膜疾患（心タンポナーデ、急性心膜炎）		30	30
15	不整脈（不整脈とは、心室期外収縮、心室細動、心室頻拍）		30	30
16	不整脈（心房細動、洞頻脈、房室ブロック、QT延長症候群、WPW症候群）		30	30
17	心電図の観察（心電図の基礎、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈）		30	30
18	心電図の観察（期外収縮、心筋の虚血性変化、その他の心電図異常）		30	30
19	その他の心疾患（心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患） 血管疾患（急性大動脈解離、大動脈瘤）		30	30
20	血管疾患（深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症、急性四肢動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症） 高血圧（高血圧症、高血圧緊急症）		30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版			
<b>参考文献</b>	『新版からだの地図帳』佐藤達夫、講談社			
<b>備考</b>				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

株式会社ファーストエマージェンシーにて10年の救急関連実務（イベント救護等）を有する。加えて、他救急救命士養成校で講師を担当。実務と教育経験を踏まえ、疾病救急医学Ⅰでは疾病救急の評価と初期対応を実践的に教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-02				
	●	●	●	●						
科目名	疾病救急医学Ⅱ				単位認定者	佐藤 武諭毅		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	10 %
						授業時間数	40 時間			
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	救急救命の現場で遭遇することの多い疾患について学修する。消化系疾患は頻度が高く、軽症例から緊急の処置が必要な重症例まで幅が大きい。泌尿系疾患では、腎臓機能の低下、尿管・尿道の流路障害、尿路感染症、生殖系疾患では、女性は内性器感染症や腫瘍に起因する病態、男性は精巣上体炎、前立腺炎等の感染症、精索捻転症等の頻度が高い。また、内分泌・代謝・栄養系疾患の中では特に糖尿病とその合併症による救急要請が多い。「疾病救急医学Ⅱ」では、消化系疾患、泌尿・生殖系疾患、内分泌・代謝・栄養系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。									
到達目標	消化系疾患、泌尿・生殖系疾患、内分泌・代謝・栄養系疾患についての病態について理解し説明することができる。									
学修者への期待等	テキストを熟読すること。授業内で小テストを実施する。消化系、泌尿系、生殖系、内分泌系の構造と機能についても予習・復習すること。授業とシミュレーションと合わせて理解を深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	消化系疾患① (総論、歯・口腔疾患)				事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習すること。				30	30
2	消化系疾患② (食道疾患)				事後学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で復習すること。				30	30
3	消化系疾患③ (胃・十二指腸疾患)								30	30
4	消化系疾患④ (構成する器官)				事前学修：テキスト第Ⅱ編専門基礎分野 第1章人体の構造と機能 7消化系、第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習すること。 事後学修：テキスト第Ⅱ編専門基礎分野 第1章人体の構造と機能 7消化系、第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で復習すること。				30	30
5	消化系疾患⑤ (腸疾患)				事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で予習すること。				30	30
6	消化系疾患⑥ (急性腹膜炎)				事後学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 4消化系疾患で復習すること。				30	30
7	消化系疾患⑦ (肝臓・胆道・膵臓の疾患)								30	30
8	泌尿・生殖系疾患① (総論)				事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習すること。				30	30
9	泌尿・生殖系疾患② (急性腎不全と急性腎障害)				事後学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で復習すること。				30	30
10	泌尿・生殖系疾患③ (構成する器官)				事前学修：テキスト第Ⅱ編専門基礎分野 第1章人体の構造と機能 8泌尿系、9生殖系、第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習すること。 事後学修：テキスト第Ⅱ編専門基礎分野 第1章人体の構造と機能 8泌尿系、9生殖系、第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で復習すること。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	泌尿・生殖系疾患④ (慢性腎不全と慢性腎障害)	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で予習すること。 事後学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 5泌尿・生殖系疾患で復習すること。	30	30
12	泌尿・生殖系疾患⑤ (尿路の疾患)		30	30
13	泌尿・生殖系疾患⑥ (女性・男性生殖器の疾患)		30	30
14	代謝・内分泌・栄養系疾患① (総論)	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で予習すること。 事後学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章疾病救急医学 6代謝・内分泌・栄養系疾患で復習すること。	30	30
15	代謝・内分泌・栄養系疾患② (糖尿病)		30	30
16	代謝・内分泌・栄養系疾患③ (糖尿病とその合併症)		30	30
17	代謝・内分泌・栄養系疾患④ (その他の代謝異常)		30	30
18	代謝・内分泌・栄養系疾患⑤ (甲状腺機能亢進症・低下症)		30	30
19	代謝・内分泌・栄養系疾患⑥ (副腎機能異常)		30	30
20	代謝・内分泌・栄養系疾患⑦ (栄養疾患)		30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード( )			
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版			
<b>参考文献</b>	『新版 からだの地図帳』佐藤達夫、講談社			
<b>備考</b>	小テスト・効果確認は、授業内でフィードバックします。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

株式会社ファーストエマージェンシーにて10年の救急関連実務(イベント救護等)を有する。加えて、他救急救命士養成校で講師を担当。実務と教育経験を踏まえ、疾病救急医学Ⅱでは疾病救急の評価と初期対応を実践的に教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-03				
	●	●	●	●						
科目名	疾病救急医学Ⅲ				単位認定者		試験(筆記)	60 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
				授業形態	講義	授業時間数	40 時間		受講態度	20 %
						授業回数	20 回			
授業の概要	救急救命の現場で遭遇することの多い疾患について学修する。血液・免疫系疾患は、アナフィラキシーを除けば傷病者の救急搬送時に問題となる機会は少ない。ただし、貧血や出血傾向等は重症傷病者に附随する病態であることが多く、観察や処置を的確に実施するためには、その基本的な理解が必須である。筋・骨格系疾患は、強い疼痛や歩行困難のために救急搬送される頻度が比較的高いが、緊急度は概ね低い。ただし、一般的な主訴である腰痛をきたす疾患には大動脈疾患や腎疾患が、肩の痛みをきたす疾患には心筋梗塞等が含まれており、頻度は低いが緊急度・重症度は高い疾患であるケースもあるため、慎重な判断が求められる。皮膚系疾患は、皮膚病変が内臓疾患と密接に関連している場合が多く、皮膚所見のみならず、全身疾患の部分症状として認識する必要がある。「疾病救急医学Ⅲ」では、血液・免疫系疾患、筋・骨格系疾患、皮膚系疾患、感覚系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液・免疫系の疾患、発症機序、症候、観察、評価、処置等を説明できる。</li> <li>2. 筋・骨格系の疾患、発症機序、症候、観察、評価、処置等を説明できる。</li> <li>3. 皮膚系の疾患、発症機序、症候、観察、評価、処置等を説明できる。</li> <li>4. 眼・耳・鼻の疾患、発症機序、症候、観察、評価、処置等を説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	今日置かれている救急活動の重要性を認識し、どのような症例にも冷静に迅速的確な緊急度・重症度の判断と現場対応ができるよう知識、技術をしっかりと修得してほしい。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	血液・免疫系疾患① 総論				事前学修：標準テキストの「血液・免疫系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「血液・免疫系疾患」を読み復習をする			30	30	
2	血液・免疫系疾患② 血液系疾患				事前学修：標準テキストの「血液・免疫系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「血液・免疫系疾患」を読み復習をする			30	30	
3	血液・免疫系疾患③ 免疫系疾患				事前学修：標準テキストの「血液・免疫系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「血液・免疫系疾患」を読み復習をする			30	30	
4	血液・免疫系疾患④ アナフィラキシー				事前学修：標準テキストの「血液・免疫系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「血液・免疫系疾患」を読み復習をする			30	30	
5	筋・骨格系疾患① 総論				事前学修：標準テキストの「筋・骨格系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「筋・骨格系疾患」を読み復習をする			30	30	
6	筋・骨格系疾患② 脊椎疾患				事前学修：標準テキストの「筋・骨格系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「筋・骨格系疾患」を読み復習をする			30	30	
7	筋・骨格系疾患③ 脊椎疾患、関節疾患				事前学修：標準テキストの「筋・骨格系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「筋・骨格系疾患」を読み復習をする：			30	30	
8	筋・骨格系疾患④ 関節疾患				事前学修：標準テキストの「筋・骨格系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「筋・骨格系疾患」を読み復習をする			30	30	
9	筋・骨格系疾患⑤ 筋疾患				事前学修：標準テキストの「筋・骨格系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「筋・骨格系疾患」を読み復習をする			30	30	
10	皮膚系疾患① 総論				事前学修：標準テキストの「皮膚系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「皮膚系疾患」を読み復習をする			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	皮膚系疾患② 皮膚・軟部組織の感染症	事前学修：標準テキストの「皮膚系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「皮膚系疾患」を読み復習をする	30	30
12	皮膚系疾患③ アレルギー性疾患	事前学修：標準テキストの「皮膚系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「皮膚系疾患」を読み復習をする	30	30
13	皮膚系疾患④ その他の皮膚疾患	事前学修：標準テキストの「皮膚系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「皮膚系疾患」を読み復習をする	30	30
14	眼・耳・鼻の疾患① 総論（眼に関する主要症候）	事前学修：標準テキストの「眼・耳・鼻の疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「眼・耳・鼻の疾患」を読み復習をする	30	30
15	眼・耳・鼻の疾患② 総論（耳に関する主要症候、鼻に関する主要症候）	事前学修：標準テキストの「眼・耳・鼻の疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「眼・耳・鼻の疾患」を読み復習をする	30	30
16	眼・耳・鼻の疾患③ 眼の疾患	事前学修：標準テキストの「眼・耳・鼻の疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「眼・耳・鼻の疾患」を読み復習をする	30	30
17	眼・耳・鼻の疾患④ 耳の疾患	事前学修：標準テキストの「眼・耳・鼻の疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「眼・耳・鼻の疾患」を読み復習をする	30	30
18	眼・耳・鼻の疾患⑤ 鼻の疾患	事前学修：標準テキストの「眼・耳・鼻の疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「眼・耳・鼻の疾患」を読み復習をする	30	30
19	血液・免疫系疾患、筋・骨格系疾患の復習	事前学修：標準テキストの「血液・免疫系疾患、筋・骨格系疾患」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「血液・免疫系疾患、筋・骨格系疾患」を読み復習をする	30	30
20	皮膚系疾患、眼・耳・鼻の疾患の復習	事前学修：標準テキストの「皮膚系疾患、眼・耳・鼻の疾」を読み予習をする 事後学修：標準テキストの「皮膚系疾患、眼・耳・鼻の疾」を読み復習をする	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会編集、ヘルス出版社			
<b>参考文献</b>	『新版からだの地図帳』佐藤達夫監修、講談社			
<b>備考</b>				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-04				
	●	●	●	●						
科目名	疾病救急医学IV				単位認定者		試験(筆記)	70 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
							授業時間数		40 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			20 回	
授業の概要	救急救命の現場で遭遇することの多い特徴的な疾患について学修する。小児の救急疾患は、基本的には成人の場合と処置は同様だが、訴えが不明瞭であるために重症度の判断や重症化の予知が困難等の特徴がある。小児の年齢によって好発する疾患があり、同じ疾患でも低年齢ほど重症化しやすいことも特徴といえる。高齢者の救急疾患には、加齢による身体機能や精神機能の変化を背景とした疾患であることが多い。母体の救急疾患には、母体と胎児・新生児の観察・処置等を同時に行うという特殊性があり、分娩介助が必要となる場合もある。精神障害には、それぞれの精神症状にあわせた適切な対応が求められ、自傷他害の恐れがあるケースもある。「疾病救急医学IV」では、小児に特有な疾患、高齢者に特有な疾患、妊娠・分娩と救急疾患、精神障害について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。									
到達目標	各項目のそれぞれの傷病者に対する知識を深めるとともに、必要な対応ができるようになる。									
学修者への期待等	授業で学んだ症例がシミュレーションの症例としても出てきます。実習だけではなく、社会動向も含めて関心を持ち理解を深めてほしい。様々な疾患を持つ傷病者に寄り添い、適切な対応ができることを期待する。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	感染症①：総論				事前学修：P. 634～P. 636を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと			30	30	
2	感染症②：敗血症、結核				事前学修：P. 636、637を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと			30	30	
3	感染症③：インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、食中毒				事前学修：P. 637～P. 640を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと			30	30	
4	感染症④：輸入感染症、発疹性感染症				事前学修：P. 640、641を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと			30	30	
5	感染症⑤：性感染症、その他の感染症				事前学修：P. 641～P. 643を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと			30	30	
6	小児に特有な疾患①：総論				事前学修：P. 644～P. 646を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと			30	30	
7	小児に特有な疾患②：観察と判断				事前学修：P. 646、647を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと			30	30	
8	小児に特有な疾患③：神経系・呼吸系				事前学修：P. 647～P. 650を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと			30	30	
9	小児に特有な疾患④：消化系・感染症				事前学修：P. 650、651を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと			30	30	
10	小児に特有な疾患⑤：その他の疾患				事前学修：P. 651～P. 653を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	高齢者に特有な疾患①：総論	事前学修：P. 654、655を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
12	高齢者に特有な疾患②：高齢者疾患の特徴、高齢者の置かれた状況、傷病者への対応（実技を含む）	事前学修：P. 655～P. 657を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
13	高齢者に特有な疾患③：認知症、誤嚥性肺炎、骨粗鬆症	事前学修：P. 658～P. 660を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
14	高齢者に特有な疾患④：せん妄、脱水、褥瘡、廃用症候群	事前学修：P. 660を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
15	妊娠・分娩と救急疾患①：正常妊娠と妊娠経過	事前学修：P. 661～P. 665を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
16	妊娠・分娩と救急疾患②：妊娠・分娩・産褥に関する異常	事前学修：P. 665～P. 668を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
17	妊娠・分娩と救急疾患③：観察と処置（実技を含む）	事前学修：P. 669、670を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
18	妊娠・分娩と救急疾患④：妊産婦の心肺蘇生、出産時の新生児の蘇生（実技を含む）	事前学修：P. 670～P. 675を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
19	精神障害①：総論、主な精神障害	事前学修：P. 676～P. 684を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
20	精神障害②：向精神薬の主な副作用	事前学修：P. 684、685を読んでおくこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の復習、課題への取り組みを行うこと	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技）			
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版			
<b>参考文献</b>	なし			
<b>備考</b>	資料の配布、課題のフィードバックについては授業内で行います。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-TEM-01				
	●	●		●						
科目名	外傷学 I				単位認定者	田中 耕一		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
							授業時間数		40 時間	
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	外傷とは、広義では、機械的、物理的、化学的な外力により生じた組織・臓器の損傷のことをいう。「外傷学 I」では、外傷の疫学や外傷システム、頭部外傷、顔面・頸部外傷、脊椎・脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷等について、それぞれの受傷機転、発生機序、病態、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法等を学修する。救急外傷疾患には、重症外傷でショックを伴うもの等があり、外傷により生じる生体の反応等、外傷の病態生理についても学ぶ。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、外傷に対応する基礎知識を身につける。									
到達目標	1. 頭部外傷の傷病者評価、病態、主な外傷および現場対応の要点を説明できる。 2. 顔面・頸部外傷の傷病者評価、病態、主な外傷および現場対応の要点を説明できる。 3. 脊椎・脊髄外傷の傷病者評価、病態、主な外傷および現場対応の要点を説明できる。 4. 胸部外傷の傷病者評価、病態、主な外傷および現場対応の要点を説明できる。 5. 腹部外傷の傷病者評価、病態、主な外傷および現場対応の要点を説明できる。									
学修者への期待等	今日の救急活動の重要性を十分に認識し、どのような症例に対しても冷静かつ迅速・的確に緊急度および重症度を判断し、適切な現場対応ができるよう、必要な知識と技術を身につけてください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	疫学と外傷システム				事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「疫学と外傷システム」(P688～690)を読んでおくこと。 事後学修：救急救命士標準テキスト第6章「疫学と外傷システム」(P688～690)を読んで理解しておくこと。				30	30
2	受傷機転① 受傷機転とエネルギー				事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「受傷機転」(P691～700)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「受傷機転」(P691～692)を読んで理解しておくこと。				30	30
3	受傷機転② 外傷の分類				事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「受傷機転」(P691～700)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「受傷機転」(P692～696)を読んで理解しておくこと。				30	30
4	受傷機転③ 主な受傷形態				事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「受傷機転」(P691～700)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「主な受傷形態」(P696～700)を読んで理解しておくこと。				30	30
5	外傷の病態生理① 侵襲への反応				事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「外傷の病態生理」(P701～705)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「外傷の病態生理」(P701～703)を読んで理解しておくこと。				30	30
6	外傷の病態生理② 外傷に伴うショック、外傷によるショックに対する輸液				事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「外傷の病態生理」(P701～705)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「外傷の病態生理」(P703～705)を読んで理解しておくこと。				30	30
7	外傷の現場活動① 状況評価、傷病者の評価(初期評価、全身観察、重点観察)				事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「外傷の現場活動」(P706～711)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「外傷の現場活動」(P706～710)を読んで理解しておくこと。				30	30
8	外傷の現場活動② 傷病者の評価(緊急度・重症度とロードアンドゴーの判断、医療機関選定と搬送開始、搬送中の活動)				事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「外傷の現場活動」(P706～711)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「外傷の現場活動」(P710～711)を読んで理解しておくこと。				30	30
9	疫学と外傷システム、受傷機転、外傷の病態生理、外傷の現場活動の復習(課題のプレゼンテーション)、効果確認				事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「疫学と外傷システム～外傷の現場活動」(P688～711)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「疫学と外傷システム～外傷の現場活動」(P688～711)を読んで理解しておくこと。				30	30
10	頭部外傷① 疫学、受傷機転、病態、主な外傷				事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「頭部外傷」(P712～718)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「頭部外傷」(P712～717)を読んで理解しておくこと。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	頭部外傷② 現場活動	事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「頭部外傷」(P712～718)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「頭部外傷」(P717～718)を読んで理解しておくこと。	30	30
12	顔面・頸部外傷① 疫学、特徴、主な外傷	事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「顔面・頸部外傷」(P719～723)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「顔面・頸部外傷」(P719～721)を読んで理解しておくこと。	30	30
13	顔面・頸部外傷② 現場活動	事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「顔面・頸部外傷」(P719～723)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「顔面・頸部外傷」(P721～723)を読んで理解しておくこと。	30	30
14	脊椎・脊髄外傷① 疫学、脊椎損傷の受傷機転、病態	事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「脊椎・脊髄外傷」(P724～729)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「脊椎・脊髄外傷」(P724～727)を読んで理解しておくこと。	30	30
15	脊椎・脊髄外傷② 主な外傷、現場活動	事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「脊椎・脊髄外傷」(P724～729)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「脊椎・脊髄外傷」(P727～729)を読んで理解しておくこと。	30	30
16	胸部外傷① 疫学、受傷機転、病態、主な外傷	事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「胸部外傷」(P730～735)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「胸部外傷」(P730～734)を読んで理解しておくこと。	30	30
17	胸部外傷② 現場活動	事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「胸部外傷」(P730～735)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「胸部外傷」(P734～735)を読んで理解しておくこと。	30	30
18	腹部外傷① 疫学、受傷機転、病態	事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「腹部外傷」(P736～739)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「腹部外傷」(P736～737)を読んで理解しておくこと。	30	30
19	腹部外傷② 主な外傷、現場活動	事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「腹部外傷」(P736～739)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「腹部外傷」(P737～739)を読んで理解しておくこと。	30	30
20	頭部外傷、顔面・頸部外傷、脊椎・脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷の復習（課題のプレゼンテーション）、効果確認	事前学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「頭部外傷～腹部外傷」(P712～739)を読んでおくこと。 事後学修：標準テキスト第6章の外傷救急医学「頭部外傷～腹部外傷」(P712～739)を読んで理解しておくこと。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	□該当なし ☑該当あり：キーワード（プレゼンテーション、効果確認）			
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト 改訂第11版』救急救命士標準テキスト編集委員会編集、へるす出版社 『新版からだの地図帳』佐藤達夫監修、講談社			
<b>参考文献</b>	『JPTECガイドブック 改訂第2版補訂版』一般社団法人 JPTEC協議会編著、へるす出版社			
<b>備考</b>	*授業内で効果確認を実施する。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は、消防職員として37年にわたる実務経験と救急救命士資格を有しています。これまでの経験および研究活動を活かし、学生が外傷学への理解を深め、救急医療を学ぶ上で必要となる基礎医学の知識が身につくような授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-TEM-02				
	●	●		●						
科目名	外傷学Ⅱ				単位認定者			試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
							授業時間数		40 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			20 回	
授業の概要	<p>外傷とは、広義では、機械的、物理的、化学的な外力により生じた組織・臓器の損傷のことをいう。「外傷学Ⅱ」では、骨盤外傷、四肢外傷のほか、小児・高齢者・妊婦の外傷や、熱傷、化学損傷、電撃傷・雷撃傷、縊頸・絞頸、刺咬症等の特殊な外傷について、それぞれの受傷機転、発生機序、病態、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、外傷に対応する基礎知識を身につける。</p>									
到達目標	<p>防ぎ得た外傷死を減らすための外傷に対応する知識を深め、説明できる。外傷学Ⅰ・Ⅱで学修した内容をシミュレーション等で実践することができる。</p>									
学修者への期待等	<p>授業で学んだ内容をシミュレーション等で実践することができる。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、重要な項目のひとつだという事を念頭に置いて授業に臨んでほしい。</p>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	骨盤外傷①：疫学、受傷機転、病態				事前学修：P.740を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。			30	30	
2	骨盤外傷②：主な外傷				事前学修：P.740・741を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。			30	30	
3	骨盤外傷③：現場活動				事前学修：P.742・743を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。			30	30	
4	四肢外傷①：疫学、病態				事前学修：P.744・745を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。			30	30	
5	四肢外傷②：主な外傷				事前学修：P.745～P.748を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。			30	30	
6	四肢外傷③：現場活動				事前学修：P.748～P.751を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。			30	30	
7	小児の外傷：特徴、主な外傷				事前学修：P.752～P.755を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。			30	30	
8	高齢者の外傷：特徴、主な外傷				事前学修：P.755・756を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。			30	30	
9	妊婦の外傷				事前学修：P.756を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。			30	30	
10	骨盤外傷～小児・高齢者・妊婦の外傷まとめ				事前学修：P.740～P.756を読んでおくこと。 事後学修：1回～9回までの配布資料や小テストを再度確認すること。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
11	熱傷①：疫学と受傷機転、病態	事前学修：P. 757・758を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
12	熱傷②：注意を要する熱傷、評価	事前学修：P. 758～P. 761を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
13	熱傷③：現場活動	事前学修：P. 761・762を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
14	化学損傷①：各種の化学損傷	事前学修：P. 763～P. 766を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
15	化学損傷②：観察、処置	事前学修：P. 766～P. 768を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
16	電撃症・雷撃症	事前学修：P. 769～P. 774を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
17	縊頸・絞頸	事前学修：P. 775～P. 777を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
18	刺咬症（傷）①：哺乳類、爬虫類	事前学修：P. 778～P. 780を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
19	刺咬症（傷）②：節足動物、海洋生物	事前学修：P. 780～P. 782を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、配布資料の確認等を行うこと。	30	30
20	熱傷～刺咬症（傷）まとめ	事前学修：P. 757～P. 782を読んでおくこと。 事後学修：11回～19回までの配布資料や小テストを再度確認すること。	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版			
<b>参考文献</b>	『JPTECガイドブック』一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版			
<b>備考</b>				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
EM-2-CLP-01

科目名	救急救命シミュレーション I				単位 認定者	田中 耕一		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	5 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	150 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	75 回			
授業の概要	<p>自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営むことができる救急救命士としての自覚を養う。傷病者の苦痛の軽減や症状の悪化防止に必要な観察法や応急処置等のシミュレーションを行い、救急救命処置の基本となる傷病者の観察と判断、応急処置に必要な知識と技術搬送法を修得する。また、傷病者の基本的観察や気道管理、呼吸管理、体位管理、体温管理等に必要な資材、機材の使用法や注意点を理解し、実際の救急活動において的確に実践するための基本的技術を身につける。救急救命士として、傷病者の容態の安定化を図り生命維持を助けることのできる、傷病者に対する初期対応のプロとなるための技術の基礎を、シミュレーションを通して身につける。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急隊員としての基本的な役割を理解し、傷病者に対して安全かつ適切に救急活動を行うことができる。</li> <li>救急活動の基本となる観察・判断・処置・評価について理解し、状況に応じた対応を説明できる。</li> <li>救急救命士として必要となる基礎的な知識および技術を修得する。</li> <li>人間愛と思いやりの心を持ち、傷病者や家族の立場に配慮した救急活動の在り方を理解する。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>演習は、ペアまたは小グループで行う。</li> <li>授業は主に実技を実施するので特別な指示がない限り、実習服・実習靴・アポロキャップ着帽とする。</li> <li>救急救命士標準テキストを持参する。</li> <li>演習で使用する訓練用人形は、実際の傷病者を想定して取り扱い、救急活動に携わる者として適切な態度で臨むこと。</li> <li>学生同士で積極的にコミュニケーションを図り、協力して演習に取り組むこと。</li> <li>事前にテキストやUNIPAに掲載された資料を事前に確認し、主体的に演習へ参加することを期待する。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	授業ガイダンス① 規律要領の説明 訓練礼式の基準、動作の基本、行動の基本				事前学修：テキスト第三編第1章「救急活動時のコミュニケーション」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。		30	30	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯	
2	授業ガイダンス② 規律要領の実践 集合整列要領、各個訓練、号令等の指揮						30	30		
3	救急資器材の確認 救急蘇生法 成人（一般市民用：人工呼吸、死戦期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 主に教員からの解説と展示				事前学修：テキスト第三編第2章「救急蘇生法」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。		30	30	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯	
4	救急蘇生法 成人（一般市民用：人工呼吸、死戦期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 主に学生の実技 （グループディスカッション）						30	30		
5	救急蘇生法 成人・小児・乳幼児（一般市民用：人工呼吸、死戦期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 主に学生の実技と効果確認（指導者役・受講生役） （グループディスカッション・効果確認）						30	30		

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	救急蘇生法（一般市民用：気道異物除去、止血法、固定法、三角巾の使用法、体位管理、体温管理）	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「救急蘇生法」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
7	救急蘇生法（一般市民用：搬送法、熱傷の手当、熱中症の手当、法的責任、感染防止）		30	30	
8	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「観察総論」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口 雅司 田中 耕一 橋本 美菜
9	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に学生の実技（グループディスカッション）	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「全身状態の観察」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
10	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に学生の実技と効果確認（グループディスカッション・効果確認）		30	30	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
11	傷病者の観察項目 （主に意識レベル、呼吸、循環、全身）	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「観察総論」～「神経所見の観察」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 横山 亜矢
12	局所の観察（皮膚、頭部、顔面、頸部、胸部、背部、腹部、鼠径部、会陰部、骨盤、手指、足趾、爪、各種病態の観察アルゴリズム） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「局所の観察」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
13	局所の観察（皮膚、頭部、顔面、頸部、胸部、背部、腹部、鼠径部、会陰部、骨盤、手指、足趾、爪、各種病態の観察アルゴリズム） 主に学生の実技と効果確認（グループディスカッション・効果確認）		30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
14	神経所見の観察（運動機能、感覚、髄膜刺激症候、失語症と構音障害、脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「神経所見の観察」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
15	神経所見の観察（運動機能、感覚、髄膜刺激症候、失語症と構音障害、脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法） 主に学生の実技と効果確認（グループディスカッション・効果確認）		30	30	田中 耕一 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	資器材による観察（パルスオキシメータ、聴診器、 血圧計、体温計、心電図モニター） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「資器材による観察」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 横山 亜矢
17	資器材による観察（パルスオキシメータ、聴診器、 血圧計、体温計、心電図モニター） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
18	緊急度・重症度判断トレーニング/内因性・外因性 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「緊急度・重症度」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
19	緊急度・重症度判断トレーニング/内因性・外因性 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
20	緊急度・重症度判断トレーニング/内因性・外因性 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
21	意識のある傷病者に対する活動要領① 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「観察総論」～「緊急度・重症度」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 横山 亜矢
22	意識のある傷病者に対する活動要領① 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
23	酸素投与（各マスク）、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる各方式） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
24	酸素投与（各マスク）、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる各方式） 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
25	酸素投与（各マスク）、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる各方式） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
26	気道確保（手動的気道確保・エアウェイを用いた気道確保）、気道異物除去 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜	
27	気道確保（手動的気道確保・エアウェイを用いた気道確保）、気道異物除去 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30		
28	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に教員からの解説と展示		30	30	田中 耕一 横山 亜矢 菊地 芽唯	
29	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30		
30	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30		
31	止血（止血帯、ターニケット）、創傷処置（種類、器具、方法）、固定（種類、器具、方法） 主に教員からの解説と展示		30	30		
32	止血（止血帯、ターニケット）、創傷処置（種類、器具、方法）、固定（種類、器具、方法） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	田中 耕一 菊地 芽唯	
33	重症外傷傷病者に対する活動（状況評価・初期評価・全身観察） 主に教員からの解説と展示		事前学修：テキスト第Ⅲ編第6章「外傷の現場活動」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 橋本 美菜 菊地 芽唯
34	重症外傷傷病者に対する活動（状況評価・初期評価・全身観察） 主に学生の実技 （グループディスカッション）			30	30	
35	重症外傷傷病者に対する活動（状況評価・初期評価・全身観察） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
36	体位管理、体温管理、傷病者搬送（担架、ストッレ チャー、救急車） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ 編第2章「救急搬送」で 予習する。 事後学修：実技後、上記 テキストの該当項目で適 応・手順等の確認をす る。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅
37	体位管理、体温管理、傷病者搬送（担架、ストッレ チャー、救急車） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
38	重症外傷傷病者に対する活動（全身観察・重点観 察） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ 編第6章「外傷の現場活 動」で予習する。 事後学修：実技後、上記 テキストの該当項目で適 応・手順等の確認をす る。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
39	重症外傷傷病者に対する活動（医療機関選定・車内 活動） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
40	重症外傷傷病者に対する活動（車内活動・詳細観 察・継続観察） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
41	心停止傷病者に対する活動（特定行為は除く） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ 編第2章「救急蘇生法」 で予習する。 事後学修：実技後、上記 テキストの該当項目で適 応・手順等の確認をす る。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
42	心停止傷病者に対する活動（特定行為は除く） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
43	重症外傷傷病者に対する活動（車外救出・ヘルメッ ト離脱） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ 編第6章「外傷の現場活 動」で予習する。 事後学修：実技後、上記 テキストの該当項目で適 応・手順等の確認をす る。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
44	重症外傷傷病者に対する活動（車外救出・ヘルメッ ト離脱） 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
45	重症外傷傷病者に対する活動（車外救出・ヘルメッ ト離脱） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
46	声門上気道デバイスを用いた気道確保（各種） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 横山 亜矢
47	声門上気道デバイスを用いた気道確保（各種） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
48	意識のある傷病者に対する活動要領② 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「観察総論」～「緊急度・重症度」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
49	意識のある傷病者に対する活動要領② 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
50	意識のある傷病者に対する活動要領② 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
51	気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡、気管吸引、カプノメータ 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅
52	気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡、気管吸引、カプノメータ 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
53	特定行為を含む救急隊活動①（外因性） 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第6章「外傷の現場活動」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
54	特定行為を含む救急隊活動①（外因性） 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
55	特定行為を含む救急隊活動①（外因性） 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
56	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第Ⅲ編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一
57	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（基本動作） （グループディスカッション）		30	30	
58	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（応用動作） （グループディスカッション）		30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
59	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（全般） （グループディスカッション）		30	30	
60	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
61	心停止傷病者へのアドレナリン投与、エピペンの使用 主に教員からの解説と展示		30	30	
62	心停止傷病者へのアドレナリン投与、エピペンの使用 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	田中 耕一 横山 亜矢 菊地 芽唯
63	器具による気道確保プロトコール(実技・病院連絡要領) 適応・判断・病院連絡 主に教員からの解説と展示		30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
64	器具による気道確保プロトコール(実技・病院連絡要領) 適応・判断・病院連絡 主に学生の実技 （グループディスカッション）		30	30	
65	器具による気道確保プロトコール(実技・病院連絡要領) 適応・判断・病院連絡 主に学生の実技と効果確認 （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
66	血糖測定・ブドウ糖投与 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭 橋本 美菜 菊地 芽唯
67	血糖測定・ブドウ糖投与 主に学生の実技と効果確認 (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
68	心停止前傷病者への輸液 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
69	心停止前傷病者への輸液 主に学生の実技 (グループディスカッション)		30	30	
70	心停止前傷病者への輸液 主に学生の実技と効果確認 (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
71	特定行為を含む救急隊活動②(外因性) 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第6章「外傷の現場活動」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
72	特定行為を含む救急隊活動②(外因性) 主に学生の実技と効果確認 (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
73	特定行為を含む救急隊活動③(内因性) 主に教員からの解説と展示	事前学修：テキスト第三編第2章「救急救命士が行う処置」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
74	特定行為を含む救急隊活動③(内因性) 主に学生の実技 (グループディスカッション)		30	30	
75	特定行為を含む救急隊活動③(内因性) 主に学生の実技と効果確認 (グループディスカッション・効果確認)		30	30	

<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技、グループディスカッション）
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト 改訂第11版』救急救命士標準テキスト編集委員会編集、へるす出版社 『JPTECガイドブック 改訂第2版補訂版』一般社団法人 JPTEC協議会編著、へるす出版社 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版 『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治（総監修）、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治（総監修）、晴れ書房
<b>参考文献</b>	『E. M. T Support Book』山本保博（監修）、東京法令出版 『救急蘇生法の指針2020医療従事者用』へるす出版 『救急蘇生法の指針2020市民用・解説編』へるす出版
<b>備考</b>	授業の進捗状況および理解度に応じて、実施順序等を変更する場合がある。各項目の最終日には、学修効果の確認を行うことがある。授業時の服装は、特別な指示がない限り、実習服・実習靴・アポロキャップ着帽とする。公安職および医療従事者をを目指す学生としてふさわしい整容を心掛けて授業に臨むこと。フィードバックは各項目終了後、適宜実施する。授業内課題は実技試験（20%）とする。

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

- ・救急救命士として25年以上の実務経験を活用して、救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を指導する。
- ・救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-CLP-02				
	●		●	●						
科目名	救急救命シミュレーションⅡ				単位認定者	田中 耕一		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	5 単位		授業内課題等	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		150 時間	受講態度
							授業回数		75 回	
授業の概要	「救急救命シミュレーションⅠ」で修得した技術をもとに、各救急救命処置についてその目的を理解し、各処置における手技の基本を体得する。また、各救急救命処置に対応した必要資材、機材の使用法や注意点等を理解し、実際の救急活動において的確に実践するための基本的技術を身につける。救急救命士として、傷病者の容態の安定化を図り生命維持を助けることのできる、傷病者に対する初期対応のプロとなるための技術を、シミュレーションを通して身につける。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急救命士の全基本手技を修得する。</li> <li>観察、接遇、特定行為を含めた処置の判断、指示要請、準備、処置、評価、報告の一連の救急活動を修得する。</li> <li>シミュレーションⅠで修得した内容を含め、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できる。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>演習は、ペアまたは小グループで行う。</li> <li>授業は主に実技を実施するので特別な指示がない限り、実習服・実習靴・アポロキャップ着帽とする。</li> <li>救急救命士標準テキストを持参する。</li> <li>演習で使用する訓練用的人形は、実際の傷病者を想定して取り扱い、救急活動に携わる者として適切な態度で臨むこと。</li> <li>学生同士で積極的にコミュニケーションを図り、協力して演習に取り組むこと。</li> <li>事前にテキストやUNIPAに掲載された資料を事前に確認し、主体的に演習へ参加することを期待する。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	基本手技・総合演習 (気道確保、酸素投与、人工呼吸、声門上気道デバイスを用いた気道確保、気管挿管等)				事前学修：シミュレーションⅠで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章		30	30	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯	
2	基本手技・総合演習 (胸骨圧迫、電気ショック、静脈路確保、ブドウ糖投与等)				「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習する。		30	30		
3	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・内因性疾患				事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。		30	30		
4	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・外因性疾患						30	30		
5	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・内因性疾患・外因性疾患						30	30		
6	重症外傷傷病者に対する救急隊活動① 基本手技・外傷想定(頭部・顔面・頸部) (グループディスカッション・効果確認)				事前学修：シミュレーションⅠで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章		30	30	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅	
7					「外傷救急医学」、JPTCガイドブックで予習する。		30	30		
8	想定訓練①(心肺停止・呼吸系疾患)				事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。		30	30		
9	想定訓練①(心肺停止・循環系疾患)				事前学修：シミュレーションⅠで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章		30	30		
10	想定訓練①(心肺停止・消化系・その他の疾患)				「救急病態生理学」で予習する。		30	30		

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
11	重症外傷傷病者に対する救急隊活動② 基本手技・外傷想定(胸部・腹部・脊椎・脊髄) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修: シミュレーションIで修得した内容確認。テキスト第三編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修: 実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 菊地 芽唯
12			30	30	
13	想定訓練②(呼吸不全・心不全) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修: シミュレーションIで修得した内容確認。テキスト第三編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習する。 事後学修: 実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭 菊地 芽唯
14	想定訓練②(ショック) (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
15	想定訓練②(重症脳障害) (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
16	産婦人科領域の処置 主に教員からの解説と展示	事前学修: テキスト第三編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」第5章「疾病救急医学 14 妊娠・分娩と救急疾患」で予習する。 事後学修: 実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
17	産婦人科領域の処置 主に学生の実技と効果確認 (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
18	想定訓練③(呼吸不全・心不全) (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
19	想定訓練③(ショック) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修: テキスト第三編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習する。 事後学修: 実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
20	想定訓練③(重症脳障害) (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
21	重症外傷傷病者に対する救急隊活動③ 外傷想定(腹部・骨盤) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修: テキスト第三編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修: 実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭 菊地 芽唯
22			30	30	
23	想定訓練④(意識障害・頭痛) 内因性疾患想定 (グループディスカッション・効果確認)	事前学修: テキスト第三編専門分野 第4章「救急症候学」で予習する。 事後学修: 実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
24			30	30	
25			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
26	重症外傷傷病者に対する救急隊活動④ 外傷想定（四肢外傷） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 菊地 芽唯
27			30	30	
28	想定訓練⑤（痙攣・運動麻痺・めまい） 内因性疾患想定 （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第4章「救急症候学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
29			30	30	
30			30	30	
31	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑤ 外傷想定（小児・高齢者・妊婦） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 菊地 芽唯
32			30	30	
33	想定訓練⑥（呼吸困難・咯血・胸痛・動悸） 内因性疾患想定 （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第4章「救急症候学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
34			30	30	
35			30	30	
36	災害医療・多数傷病者・トリアージ （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 菊地 芽唯
37			30	30	
38			30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
39			30	30	
40			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
41	想定訓練⑦ (一過性意識消失と失神・体温上昇) 内因性疾患想定 (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第4章「救急症候学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武論毅
42			30	30	
43			30	30	
44			30	30	
45			30	30	
46	想定訓練⑧ (腹痛・吐血・下血・腰痛・背部痛) 内因性疾患想定 (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武論毅
47			30	30	
48	想定訓練⑨ (小児・高齢者) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武論毅
49	想定訓練⑨ (小児・高齢者・妊娠・分娩と救急疾患) (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
50	想定訓練⑨ (妊娠・分娩と救急疾患・精神障害) (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
51	想定訓練⑩ (循環系疾患) 外傷想定 (電撃傷・雷撃傷) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武論毅 菊地 芽唯
52			30	30	
53	想定訓練⑩ (消化系疾患) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武論毅 菊地 芽唯
54	想定訓練⑩ (代謝・内分泌・栄養系疾患) (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
55	想定訓練⑩ (代謝・内分泌・栄養系疾患) (グループディスカッション・効果確認)		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
56	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑧ 外傷想定（縊頸・絞頸・刺咬症） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
57			30	30	
58	想定訓練⑩（血液・免疫系・筋・骨格系疾患） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
59	想定訓練⑩（泌尿・生殖器系疾患・感染症） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
60	想定訓練⑩（眼・耳・鼻・皮膚系疾患） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
61	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑨ 外傷想定（小児高齢者・妊婦） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
62			30	30	
63	想定訓練⑫（環境障害・急性中毒） 環境障害・急性中毒想定 （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第7章「急性中毒学・環境障害」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
64			30	30	
65			30	30	
66	重症外傷傷病者に対する救急隊活動⑩ 外傷想定（全身外傷） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
67			30	30	
68	想定訓練⑬（神経系疾患） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキストの該当項目で適応・手順等の確認をする。	30	30	
69	想定訓練⑬（呼吸系疾患） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	
70	想定訓練⑬（循環系疾患） （グループディスカッション・効果確認）		30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
71	総合演習① (内因性疾患想定) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：代表的な疾患の特徴を事前に復習し、救急隊としての活動をイメージして臨むこと。 事後学修：シミュレーションⅠ、Ⅱで修得したスキルを、様々な想定を経験することによって、ブラッシュアップする。	30	30	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武論毅 菊地 芽唯
72			30	30	
73	総合演習② (外因性疾患想定) (グループディスカッション・効果確認)		30	30	
74			30	30	
75			30	30	
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（演習、実技、グループディスカッション）				
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト 改訂第11版』救急救命士標準テキスト編集委員会編集、へるす出版社 『JPTECガイドブック 改訂第2版補訂版』一般社団法人 JPTEC協議会編著、へるす出版社 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版 『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房				
<b>参考文献</b>	『E. M. T Support Book』山本保博(監修)、東京法令出版 『救急蘇生法の指針2020 医療従事者用』へるす出版 『救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編』へるす出版				
<b>備考</b>	授業の進捗状況および理解度に応じて、実施順序等を変更する場合がある。各項目の最終日には、学修効果の確認を行うことがある。授業時の服装は、特別な指示がない限り、実習服・実習靴・アポロキャップ着帽とする。公安職および医療従事者をを目指す学生としてふさわしい整容を心掛けて授業に臨むこと。フィードバックは各項目終了後、適宜実施する。授業内課題は実技試験（10%）、救急隊活動（10%）とする。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

- ・救急救命士として25年以上の実務経験を活用して、救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を指導する。
- ・救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を教授する。

# 救急救命学科

## 2年生

- 年間予定表
- シラバス

## 2026年度 救急救命学科2年生 年間予定表

### 前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月				1	2	3 (入学式)	4
	5	6	7 オリエンテーション	8	9	10	11
	12	13	14	15 健康診断	16	17	18
	19	20	21 スポーツ大会	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
5月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11 救急用自動車同乗実習	12 救急用自動車同乗実習	13 救急用自動車同乗実習	14 救急用自動車同乗実習	15 救急用自動車同乗実習	16 救急用自動車同乗実習
	17 救急用自動車同乗実習	18 救急用自動車同乗実習	19 救急用自動車同乗実習	20 救急用自動車同乗実習	21 救急用自動車同乗実習	22 救急用自動車同乗実習	23 救急用自動車同乗実習
	24 救急用自動車同乗実習	25 救急用自動車同乗実習	26 救急用自動車同乗実習	27 救急用自動車同乗実習	28 救急用自動車同乗実習	29 救急用自動車同乗実習	30 救急用自動車同乗実習
	31 救急用自動車同乗実習	1 救急用自動車同乗実習	2 救急用自動車同乗実習	3 救急用自動車同乗実習	4 救急用自動車同乗実習	5 救急用自動車同乗実習	6 救急用自動車同乗実習
6月	7 救急用自動車同乗実習	8 救急用自動車同乗実習	9 救急用自動車同乗実習	10 救急用自動車同乗実習	11 救急用自動車同乗実習	12 救急用自動車同乗実習	13 救急用自動車同乗実習
	14 救急用自動車同乗実習	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
7月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
8月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20 定期試験	21 定期試験	22
	23	24	25	26 結果発表	27	28	29
	30	31	1 再試験	2 再試験	3	4	5
9月	6	7	8	9	10	11	12

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

## 2026年度 救急救命学科2年生 年間予定表

### 後期

	日	月	火	水	木	金	土
9月	13	14	15	16 オリエンテーション	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
10月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30 せいよう祭準備	31 せいよう祭
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19 臨床実習	20 臨床実習	21 臨床実習
	22 臨床実習	23 臨床実習	24 臨床実習	25 臨床実習	26 臨床実習	27 臨床実習	28 臨床実習
	29 臨床実習	30 臨床実習	1 臨床実習	2 臨床実習	3 臨床実習	4 臨床実習	5 臨床実習
12月	6 臨床実習	7 臨床実習	8 臨床実習	9 臨床実習	10 臨床実習	11 臨床実習	12 臨床実習
	13 臨床実習	14 臨床実習	15 臨床実習	16 臨床実習	17 臨床実習	18 臨床実習	19 臨床実習
	20 臨床実習	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
1月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2 定期試験	3 定期試験	4	5 結果発表	6
2月	7	8	9 再試験	10 再試験	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6
3月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17 卒業式	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-0-HSC-02				
	●			●						
科目名	数理リテラシー				単位認定者	前田 幸仁		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	日常生活の様々な場面で役立つ計算力やデータ、表やグラフ等を読み取る力を身につけ、人生のあらゆる場面で必要不可欠な数学的な考え方を効果的に学ぶ。医療従事者として必要な科学的、論理的思考を身につける。命にかかわる科学の基礎として、筋道を立てて客観的に物事を捉えることのできる考察力を培う。									
到達目標	救急救命学科学生として必要な知識を習得するとともに、論理的な思考能力を身につけることが目標である。各種公務員教養試験で出題される分野である一般知能について、基礎的なレベルの問題から正答を導き出す力を養成する。その後、基礎知識の定着と学力のさらなる向上を目指し、より難易度の高い問題から正答を導き出す力を養成する。									
学修者への期待等	事前に数的推理・判断推理・空間把握のテキストを熟読・復習してくること。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	計算の基本① 方程式・不等式 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
2	計算の基本② 整数・計算パズル (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
3	計算の基本③ 割合・比 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
4	計算の基本④ 速さ (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
5	計算の基本⑤ 仕事算 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
6	計算の基本⑥ 場合の数・確率 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
7	論理的思考① 論理・集合 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
8	論理的思考② 順序・対応 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
9	論理的思考③ 方位・位置 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
10	論理的思考④ 勝敗 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
11	論理的思考⑤ 推理・手順 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
12	空間把握① 平面図形の計算 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
13	空間把握② 立体図形の計算 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
14	資料解釈① 実数・割合・構成比 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
15	資料解釈② 指数・対数 (演習・解説)				事前学修：該当分野の予習をすること				30	0
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード (演習)									
教科書	『スタンダード問題集 数的処理』 大原出版									
参考文献	なし									
備考										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-PDR-04				
	●	●								
科目名	法医学				単位認定者	舟山 眞人		授業内課題等	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法		
				授業形態	講義	授業時間数	16 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	心臓死と脳死、早期死体現象と晚期死体現象について理解し、救急救命士が現場で死亡と判断する基準や留意点について学ぶ。死亡診断書（死体検案書）の役割や死因の分類、異常死体と検案・解剖、死後画像診断についての知識を身につける。法医学の基礎的知識について、乳児突然死、小児虐待、頭蓋内血腫による死、ガス中毒死、頸部圧迫等の観点から学修し、救急医療における重要性を理解する。									
到達目標	救急救命士として法医学に関連する知識が付き、実務現場で役立てることができる。									
学修者への期待等	講義前に準備学修に記した個所を読んでおくと理解が深まる。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	死の定義 脳死と臓器移植 救急現場の法医学 I (乳児突然死)				テキスト184頁 2-8-A を読む テキスト652頁 5-12-B-5-3 を読む				30	0
2	異状死とは 死後の医学的手続き				テキスト263頁 表9 を読む テキスト186頁 2-8-C を読む				30	0
3	死体現象(早期)				テキスト184～5頁 2-8-B-1～4 を読む				30	0
4	死体現象(晚期) 救急現場の法医学 II (小児虐待)				テキスト185頁 2-8-B-5 を読む テキスト652～3頁 5-12-B-5-5 を読む				60	0
5	救急現場の法医学 III (法医学的視点からの頭部外傷)				テキスト714～6頁 6-5-D-1～5 を読む				30	0
6	救急現場の法医学 IV (知っておきたいガス中毒)				テキスト799～800頁 7-2-D-1・2 を読む				30	0
7	救急現場の法医学 V (頸部圧迫の法医学視点) 最新Ai(死後画像診断)学				テキスト775～7頁 6-16-A・B を読む テキスト186頁2-8-C-6 を読む				30	0
8	救急現場の法医学 VI (国試問題を活用した話題提供)				事前学習は特になし。講義後は国家試験前までに、配布資料を複数回、確認すること。				0	60
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ( )									
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 適宜講義プリントを配布する。									
参考文献	特になし									
備考	授業内課題はレポート形式とする。詳細は講義中に説明する。スライドのスマホ撮影は禁止する。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-HSS-02				
	●	●			●					
科目名	地域福祉論				単位 認定者	青山 美智子		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
					授業形態		講義		授業時間数	16 時間
				授業回数		8 回				
授業の概要	地域福祉の理念や歴史的背景を学び、地域福祉の基本的な考え方を理解する。地域福祉の法的な位置づけ、施策の動向、地域福祉の果たすべき役割等を学ぶ。研究対象地域では何を求めているのか、担い手としての役割や社会資源の活用及び連携と協働について社会福祉法第1条(目的)及び第4条(地域福祉の推進)と照合し、地域を調査し特性やニーズを理解する。それぞれの地域で必要とされる活動ができる力を身につける。									
到達目標	1. 地域福祉に関する基礎的知識を体系的に理解し説明することができる。 2. 研究対象の地域を調査することで求められるニーズを把握することができる。 3. 地域福祉推進の参加について学生及び卒業後も役割の重要性を理解することができる。									
学修者への期待等	・地域ニーズの把握、課題対処の方策、連携による推進等の基本的思考を身につけてほしい。 ・学生の視点で主体的かつ積極的に課題への取り組みができることを期待する。 ・各自の活動内容を報告書にまとめPDCAに繋げることが望ましい。									
回	授業計画				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	【命題】【論点】【課題】の理解 グループワーク、ディスカッション 【提案】⇒【発表】⇒【報告書提出】 地域福祉とは、超高齢少子人口減少社会の地域福祉、福祉ニーズの拡大と今日の変容、地域福祉のかたち 対象地域の課題・ニーズと自分たちに出来ること				事前学修：第I部1講を読む 事後学修：課題を完成させる				30	30
2	人口ボーナス期と人口オーナス期の日本 社会福祉法第1条(目的)の理解、福祉ニーズの拡大と 多様化、新しい福祉問題群、住民の主体形成と参加志 向の課題、地域福祉の構成要件 1-1. 問いに対する〔個人ワーク〕				事前学修：第I部3講まで読む 事後学修：課題を完成させる				30	30
3	1-2. 問いに対する〔グループワーク〕 ①ディスカッション、②意見集約、③共有化 ワーク、④発表準備				事前学修：第I部5講まで読む 事後学修：課題を完成させる				30	60
4	1-3. 問いに対する〔報告会〕 発表・質疑応答 〔学生による発表評価の作成・提出〕				事前学修：第II部7講まで読む 事後学修：課題を完成させる				30	30
5	住民自治とガバナンス、地域福祉計画の策定プロ セス、地域福祉の共同統治と住民自治、地域包括 ケアシステムとネットワーク、地域包括ケアの展 開過程				事前学修：第II部10講まで読む 事後学修：課題を完成させる				30	30
6	事例研究「社会的な援護を要する人々に対する社 会福祉のあり方に関する検討会」報告書より、表 面化されていない困りごと(制度の狭間の問題) 2-1. 事例研究 問いに対する〔個人ワーク〕				事前学修：第III部12講まで読む 事後学修：課題を完成させる				30	30
7	2-2. 事例研究 問いに対する〔グループワーク〕 ①ディスカッション、②意見集約、③共有化 ワーク、④発表準備				事前学修：第III部13講まで読む 事後学修：課題を完成させる				30	60
8	2-3. 事例研究 問いに対する〔報告会〕 発表・質疑応答 〔学生による発表評価表作成・提出〕				事前学修：第III部15講まで読む 事後学修：課題を完成させる				30	30
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク、ディスカッション、課題、発表、報告会)									
教科書	『新版 ゼミナール地域福祉学』野口定久、中央法規									
参考文献	文献は必要に応じて授業内で紹介する。									
備考	外部団体と連携した実践活動をする場合もある。 課題については授業内でフィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-TEM-04				
	●	●		●	●					
科目名	感染症と災害医療				単位認定者	横山 亜矢		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
							授業時間数		20 時間	
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	感染症はいまや世界における脅威そのものであり、如何に対応していくかが大きな課題となっている。また、災害発生時には、多くの傷病者が発生し、傷病者数に対する医療資源が圧倒的に不足した状態下において、避難者（避難所）の集団としての特性（衛生状態の悪化、免疫力の低下等）により多岐にわたる感染症が発生する可能性が高まる。「救急医療」とは大きく異なる行動規範が必要となる「災害医療」について概観し、「感染症と災害医療」という観点からも考察する。感染予防策や感染防御についても学修する。									
到達目標	感染症の特徴と感染経路別の感染防御を学び、災害時の感染について考察できる視野を広げる。また、災害時における医療体制や災害を急性期から静止期の災害サイクルにおける救急と救急医療の係わりについて学び、日常の感染対策行動から災害時の対応までの基礎を習得する。									
学修者への期待等	救急業務における日常的な感染対策を理解する上で必要な科目です。突発的な災害における救急業務の感染対策から大規模災害時の亜急性期に社会で発生する感染症について学ぶ科目です。基礎内容を自身の知識に根付かせてください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	災害の定義・概念、災害の種類				事前学修：P. 222～P. 235を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、資料の確認を行うこと。			30	30	
2	多数傷病者				事前学修：P. 222～P. 235を読んでおくこと。 事後学修：次回の授業に向けて授業内容の復習、実施の準備を行うこと。			30	30	
3	多数傷病者事故における災害現場対応（事例説明）				事前学修：P. 222～P. 245を読んでおくこと。 事後学修：次回の実施に向けて反省点を確認しておくこと。			30	30	
4	多数傷病者事故における災害現場対応（ロールプレイング、フィードバック）				事前学修：P. 222～P. 245を読んでおくこと。 事後学修：グループ毎に実施後の感想等をまとめて、次回提出してください。			30	30	
5	地域防災と医療体制、地域災害対応能力				事前学修：資料を提示するので読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			30	30	
6	広域災害・特殊災害、大規模事故・テロ災害				事前学修：資料を提示するので読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			30	30	
7	感染症総論				事前学修：P. 634～P. 643を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			30	30	
8	新興感染症とパンデミック・エンデミック等				事前学修：資料を提示するので読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			30	30	
9	災害と感染症				事前学修：資料を提示するので読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			30	30	
10	感染対策				事前学修：P. 278～P. 288を読んでおくこと。 事後学修：授業後には内容の復習を行うこと。			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ロールプレイング）									
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版									
参考文献	『標準多数傷病者対応MCLSテキスト』一般社団法人日本災害医学会、ぱーそん書房									
備考	事前学修についての資料は実施回前の授業内で配布予定です。ロールプレイングのグループや実施内容については授業内で提示します。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は消防職員として5年以上の実務経験と救急救命士資格を有しており、その経験を生かして災害に対する理解を深め、臨床現場につなげることができるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-EDA-01				
	●	●		●						
科目名	環境障害・急性中毒学				単位認定者	横山 亜矢		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	受講態度
				授業回数		10 回				
授業の概要	中毒とは、生体内に吸収された科学物質、またはその代謝産物によって正常な生体機能が障害されることをいう。中毒の概念、中毒による障害の発生機序、病態、観察と処置等の中毒総論に始まり、医薬品中毒、農薬中毒、工業用品中毒、ガス中毒、アルコール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒、乱用薬物等、中毒各論について学修する。また、異物、溺水、熱中症、偶発性低体温症、放射線障害等の環境によって引き起こされる環境障害についても学ぶ。救急救命の現場において遭遇することの多い中毒、環境障害に関する基本的な知識を身につける。									
到達目標	中毒、異物、溺水、熱中症、偶発性低体温、放射線障害、化学テロ、その他の環境障害の病態、症候について理解し、観察、緊急度・重症度、現場活動等を説明することができる。									
学修者への期待等	先着隊としての現場活動の重要性を認識し、どのような症例にも冷静に迅速・的確な緊急度・重症度の判断と現場対応ができるよう知識と技術をしっかり習得してほしい。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	中毒総論: 中毒物質、病態生理、観察と処置				事前学修: 中毒総論 (P. 784~P. 791) を読んでおくこと 事後学修: 範囲内小テスト実施			30	30	
2	中毒各論①: 医薬品中毒、農薬中毒、工業用品中毒				事前学修: 中毒各論 (P. 792~P. 799) を読んでおくこと 事後学修: 範囲内小テスト実施			30	30	
3	中毒各論②: ガス中毒、アルコール、生物毒中毒				事前学修: 中毒各論 (P. 799~P. 802) を読んでおくこと 事後学修: 範囲内小テスト実施			30	30	
4	中毒各論③: 家庭用品中毒、乱用薬物、化学テロ関係				事前学修: 中毒各論 (P. 802~P. 806) を読んでおくこと 事後学修: 範囲内小テスト実施			30	30	
5	異物: 気道異物、消化管異物、眼・耳・鼻・性器の異物				事前学修: 異物 (P. 807~P. 811) を読んでおくこと 事後学修: 範囲内小テスト実施			30	30	
6	溺水: 病態生理、観察と処置				事前学修: 溺水 (P. 812~P. 814) を読んでおくこと 事後学修: 範囲内小テスト実施			30	30	
7	熱中症: 疫学、病態生理、観察、処置				事前学修: 熱中症 (P. 815~P. 821) を読んでおくこと 事後学修: 範囲内小テスト実施			30	30	
8	偶発性低体温症: 発生機序と病態生理、観察、処置				事前学修: 偶発性低体温症 (P. 822~P. 824) を読んでおくこと 事後学修: 範囲内小テスト実施			30	30	
9	放射線障害: 放射線の概要、人体への影響、放射線への対応、観察と処置				事前学修: 放射線障害 (P. 825~P. 833) を読んでおくこと 事後学修: 範囲内小テスト実施			30	30	
10	その他の環境障害: 高山病、減圧障害、酸素欠乏症、凍傷、紫外線による障害				事前学修: その他の環境障害 (P. 834~P. 840) を読んでおくこと 事後学修: 範囲内小テスト実施			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり: キーワード ( )									
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会編集 へるす出版									
参考文献	『新版からだの地図帳』佐藤達夫監修 講談社									
備考	授業内課題 (小テスト等) は授業内でフィードバックします。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は消防職員として5年以上の実務経験と、救急救命士資格を有しており、その経験を活かして授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-CLP-03				
		●	●	●	●					
科目名	救急救命シミュレーションⅢ				単位認定者	堀口 雅司		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	5 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		150 時間	受講態度
				授業回数		75 回				
授業の概要	救急隊を編成して症候別の想定によるシミュレーションを行い、「救急救命シミュレーションⅠ」「救急救命シミュレーションⅡ」で修得した技術を向上させる。一連の救急救命活動について、出場、救急現場、観察、処置、搬送、医療機関収容等、総合的な訓練を実施し、現場での安全管理、チーム医療活動等についても体得する。具体的な救急救命活動のシミュレーションにより、救急救命士として活動できる、実践的な能力や技術を身につける。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーションⅠからⅡで修得した知識、技術を踏まえ、緊急度・重症度の判断力を中心とした内容を修得する。</li> <li>・各班でプロトコール・活動基準を考慮した救急現場活動を理解する。</li> <li>・総合的な訓練、振り返り、再訓練等を実施し、救急救命士としての活動能力を向上させる。</li> <li>・授業のテーマに沿った想定に対し、実技からフィードバックまでを学生主体で実施し評価する。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習はペアまたは小グループで行う。</li> <li>・授業は主に実技を実施するので指示がない限り、実習服、実習靴、アポロキャップ着帽とする。</li> <li>・救急救命士標準テキストを持参する。</li> <li>・演習で使用する人形は、本物の傷病者として扱うのとし、傷病者に失礼な態度がないように取り組むこと。</li> <li>・事前にテキストやUNIPAへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員	
1	基本手技・スキルチェック (気道確保、酸素投与、人工呼吸、声門上気道デバイスを用いた気道確保、気管挿管等) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)				事前学修：シミュレーションⅠ、Ⅱで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキスト該当項目で適応・手順等の確認を実施する。		60	60	堀口 雅司 横山 亜矢	
2	基本手技・スキルチェック (胸骨圧迫、電気ショック、静脈路確保、ブドウ糖投与等) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)						60	60		
3	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・内因性疾患(腰痛・腹痛) (的確な説明と同意、安全な除細動) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)						60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武論毅 橋本 美菜	
4	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・外因性疾患(窒息・急性中毒含む) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)						60	60		
5	特定行為を含む救急隊活動 基本手技の確認・内因性疾患・外因性疾患 (的確な気道確保) (シミュレーションⅡの効果確認を含む)						60	60		

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
6	重症外傷傷病者に対する救急隊活動① 基本手技・外傷想定（溺水を含む） （シミュレーションⅡの効果確認を含む）	事前学修：シミュレーションⅠ、Ⅱで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学」、JPTECガイドブックで予習する。 事後学修：実技後、上記テキスト該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜	
7						
8	想定訓練（心肺停止・気道・呼吸系疾患） （シミュレーションⅡの効果確認を含む）	事前学修：シミュレーションⅠ、Ⅱで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキスト該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60		
9	想定訓練（内因性疾患） （シミュレーションⅡの効果確認を含む）	事前学修：シミュレーションⅠ、Ⅱで修得した内容確認。テキスト第Ⅲ編専門分野 第3章「救急病態生理学」で予習する。 事後学修：実技後、上記テキスト該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60		
10	想定訓練（外因性疾患） （シミュレーションⅡの効果確認を含む）		60	60		
11	グループ討議 現場活動について （出動～車内収容まで）		事前学修：想定訓練等の振り返りを各グループ毎に行う。 事後学修：報告書を提出するため実施した症例をテキストで復習しておくこと。	60		60
12	グループ討議 現場活動について （車内活動から医師への引継ぎまで）	堀口 雅司 横山 亜矢				
13	救急車内での高度活動① （救急車内高度気道確保・MC無線指示下での実施） （グループディスカッション・効果確認）	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：実技後、該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60		堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭 橋本 美菜
14	救急車内での高度活動② （静脈路確保・薬剤投与・MC指示連携） （グループディスカッション・効果確認）					
15	救急車内での高度活動③ （車内除細動・継続観察・AED～手動除細動器操作） （グループディスカッション・効果確認）					

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	救急活動基準・プロトコール・MC連携の理解 (メディカルコントロール体制、特定行為の法的根拠・指示基準)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
17					
18	救急車内での高度活動④ (搬送先選定) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：実技後、該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
19	救急車内での高度活動⑤ (医療機関選定基準) (グループディスカッション・効果確認)				
20	救急車内での高度活動⑥ (地域MC連携) (グループディスカッション・効果確認)				
21	救急救命士の倫理的問題・法的責任・DNAR対応 (インフォームドコンセント・救急現場での倫理判断・終末期)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司
22					
23	想定訓練 (救急現場から医療機関収容までの一連の流れ) (出場～観察・処置) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：実技後、該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
24					
25					
26	最新救急医療システムと救急救命士の将来像 (ACLSガイドライン改訂・AI活用・遠隔MC・地域医療貢献)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
27					
28	想定訓練 (救急現場から医療機関収容までの一連の流れ) (処置・搬送～収容) (グループディスカッション・効果確認)	事前学修：テキストにて該当ページを予習する。 事後学修：実技後、該当項目で適応・手順等の確認を実施する。	60	60	堀口 雅司 佐藤武諭毅 橋本 美菜
29					
30					
31	総合実技確認 (全基本手技の最終確認：気道・循環・外傷・MC連携等)		60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
32					
33					
34					
35					

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
36	想定訓練（心肺停止・CPA） 心肺停止に対する一連の救急活動シミュレーション）	事前学修：テキスト第三編 第3章「救急病態生理学」心肺停止の病態・蘇生アルゴリズムを予習する。 事後学修：CPAシナリオの振り返りと該当テキスト項目を確認する。	60	60	堀口 雅司
37	想定訓練（心肺停止・気道・呼吸系疾患）多様な原因によるCPAシナリオ（溺水・窒息・心疾患）				
38	想定訓練（内因性疾患・呼吸困難・胸痛）気管支喘息・COPD・肺炎・狭心症・心筋梗塞の救急活動	事前学修：テキスト第三編 第3章「救急病態生理学」呼吸系疾患の病態を予習する。 事後学修：想定シナリオの自己評価シートを記入・提出する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
39	想定訓練（外因性疾患・熱傷・外傷）熱傷・電撃傷・刺傷の救急活動	事前学修：テキスト第三編 第6章「外傷救急医学」熱傷・電撃傷の評価・処置を予習する。 事後学修：熱傷面積計算・処置優先順位を復習する。			
40	想定訓練（産婦人科・周産期疾患） 妊娠・正常分娩・異常分娩の救急活動	事前学修：テキスト第三編 第5章「疾病救急医学」14 妊娠・分娩と救急疾患」を精読する。 事後学修：正常・異常分娩の判断基準と処置を復習する。			
41	想定訓練（小児疾患・ショック） 小児救急（熱性痙攣・小児CPA）	事前学修：テキスト第三編 第5章「疾病救急医学」13 小児と救急疾患」を予習する。 事後学修：小児CPAと成人CPAの違いを比較整理する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
42	想定訓練（気道閉塞解除・呼吸不全） 気道閉塞・呼吸不全・上気道疾患の救急活動	事前学修：テキスト第三編 第3章「救急病態生理学」呼吸不全の病態を予習する。 事後学修：呼吸不全の分類と処置方針を復習する。			
43	想定訓練（ショック・心原性） 急性心不全・心原性ショックの救急活動	事前学修：テキスト第三編 第3章「ショックの病態生理」各分類を予習する。 事後学修：心原性ショックの観察ポイントと処置を復習する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
44	想定訓練（重症脳障害・脳血管障害） 脳卒中・重症脳障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）	事前学修：テキスト第三編 第3章「重症脳障害の病態」・第5章「脳血管障害」を予習する。 事後学修：CPSSを用いた脳卒中スクリーニングの手順を復習する。			
45	想定訓練（意識障害・頭痛・JCS/GCS評価） 意識障害・頭痛・中枢性疾患の救急活動	事前学修：テキスト第三編 第4章「救急症候学」意識障害・頭痛の項目を予習する。 事後学修：意識障害の鑑別疾患（AIUEO TIPS）を整理する。			

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
46	想定訓練（環境障害・低体温・熱中症） 熱中症・低体温症・高山病の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第7章「環境障害」熱中症・低体温症の項目を予習する。 事後学修：熱中症の重症度（Ⅰ～Ⅲ度）分類と処置手順を復習する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢	
47	想定訓練（交通事故・脊髄損傷） 交通事故・脊髄損傷傷病者の救急隊活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第6章「脊髄損傷」の項目とJPTECガイドブックを予習する。 事後学修：脊髄損傷の観察・固定手順を復習する。				
48	想定訓練（痙攣・運動麻痺・中枢性めまい） 内因性疾患（神経系症候）の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「救急症候学」痙攣・めまい・麻痺の項目を予習する。 事後学修：プロラム®（口腔用液・抗痙攣）の対応手順等を確認する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜	
49	想定訓練（代謝性障害・低血糖） 低血糖・糖尿病性昏睡の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「代謝・内分泌系疾患（糖尿病）」を予習する。 事後学修：低血糖・高血糖の判別と処置フローを復習する。	60	60		
50	想定訓練（アナフィラキシー・ショック） アナフィラキシー・アレルギー反応の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第3章「アナフィラキシーショック」・第5章「アレルギー疾患」を予習する。 事後学修：アドレナリン投与の適応・禁忌・手順を復習する。	60	60		
51	想定訓練（一過性意識消失・失神） 失神・一過性意識消失発作の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「一過性意識消失・失神」を予習する。 事後学修：失神の緊急度判定フローとバイタル変化パターンを復習する。	60	60		堀口 雅司 横山 亜矢
52	想定訓練（体温上昇・発熱・感染症） 高熱・感染症疑い傷病者の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「発熱」・第5章「感染症」を予習。感染対策手順を確認する。 事後学修：感染性疾患の観察ポイントと感染防護の手順を復習する。				
53	想定訓練（呼吸困難・動悸・胸痛の鑑別） 主訴別の鑑別疾患アプローチ想定	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「呼吸困難・動悸・胸痛」の鑑別疾患を予習する。 事後学修：各主訴に対する観察・処置の優先フローを整理する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜	
54	想定訓練（骨折・脱臼・四肢外傷） 四肢外傷・骨折・脱臼傷病者の救急活動	事前学修：JPTECガイドブック・テキスト、第Ⅲ編 第6章「四肢外傷・骨折」を予習する。 事後学修：コンパートメント症候群の早期認識と対処を復習する。	60	60		
55	想定訓練（腹痛・吐血・下血） 消化器系疾患のショック判断と処置	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「腹痛・吐血・下血」および第5章「消化器系疾患」を予習する。 事後学修：消化器系緊急疾患のショック判断基準を整理する。	60	60		

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
56	想定訓練（腰痛・背部痛・大動脈解離疑い） 腰痛・背部痛から大動脈解離を鑑別する救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第4章「腰痛・背部痛」・第5章「大動脈疾患」を予習する。 事後学修：緊急性の高い腰背部痛のレッドフラグサインを整理する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
57	想定訓練（頭部外傷・脳損傷） 頭部外傷・脳損傷傷病者の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第6章「頭部外傷・脳損傷」を予習する。 事後学修：頭蓋内圧亢進の3主徴と処置方針を復習する。			
58	想定訓練（胸部外傷・緊張性気胸） 胸部外傷・緊張性気胸の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第6章「胸部外傷・気胸・血胸」を予習する。 事後学修：緊張性気胸・開放性気胸の鑑別と処置を復習する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
59	想定訓練（小児救急・高齢者救急の特殊対応） 小児・高齢者傷病者への特殊対応訓練	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「13 小児・15 老人の救急疾患」を予習する。 事後学修：小児・高齢者の処置量計算と特殊対応を整理する。	60	60	
60	想定訓練（妊娠合併症・異常分娩） 妊娠合併症（子癇発作・前置胎盤・常位胎盤早期剥離）の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「14 妊娠・分娩（異常）」を精読する。 事後学修：妊娠合併症の緊急性判断と処置フローを復習する。	60	60	
61	想定訓練（精神障害・DV・特殊対応） 精神障害傷病者・暴力被害者等の特殊対応訓練	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「精神障害者の救急対応」を予習する。 事後学修：精神障害傷病者対応のポイントと安全管理を整理する。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
62	想定訓練（上部消化器疾患・消化管出血） 吐血・消化管出血の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「消化器疾患・消化管出血」を予習する。 事後学修：消化管出血のショック評価と輸液管理を復習する。			
63	想定訓練（代謝・内分泌系疾患・肝機能障害） 糖尿病性ケトアシドーシス・肝性脳症等の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「代謝・内分泌系疾患」を予習する。 事後学修：DKAとHHSの鑑別・処置の違いを整理する。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
64	想定訓練（泌尿器・生殖器系疾患） 尿路結石・腎不全・泌尿器系緊急疾患の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「泌尿・生殖器系疾患」を予習する。 事後学修：腎不全の緊急透析適応基準と観察を復習する。			
65	想定訓練（眼・耳・鼻・皮膚疾患・外傷） 五感・皮膚系疾患・外傷の救急活動	事前学修：テキスト第Ⅲ編 第5章「眼・耳・鼻・皮膚系疾患」を予習する。 事後学修：各部位の外傷処置の手順と注意点を復習する。			

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
66	想定訓練（全脊柱固定の精度確認） 脊柱損傷の高難度固定シナリオ	事前学修：JPTECガイドブック「全脊柱固定」の手順を再確認する。 事後学修：全脊柱固定の自己評価チェックリストで振り返りする。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 佐藤武諭 榎本 美菜
67	想定訓練（環境障害・急性中毒・代謝性疾患） 農薬中毒・CO中毒・薬物乱用の救急活動	事前学修：テキスト第三編 第7章「急性中毒学・環境障害」を精読する。 事後学修：主な中毒物質の症状・処置・解毒薬を整理する。			
68	想定訓練（神経系疾患・中枢性） 重篤な神経系疾患（重症てんかん・脳炎等）の救急活動	事前学修：テキスト第三編 第5章「神経系疾患」を精読する。 事後学修：神経学的緊急疾患の観察・処置フローを整理する。	60	60	
69	想定訓練（呼吸系疾患・上気道緊急） 喉頭蓋炎・クループ・気管支痙攣の救急活動	事前学修：テキスト第三編 第5章「呼吸系疾患（上気道）」を予習する。 事後学修：上気道緊急症への気道確保選択基準を復習する。	60	60	
70	想定訓練（循環系疾患・不整脈・心不全） 致死性不整脈・急性心不全の救急活動	事前学修：テキスト第三編 第5章「循環系疾患・不整脈・心不全」を予習する。 事後学修：致死性不整脈のアルゴリズムを再確認する。	60	60	
71	総合演習① 内因性疾患・外因性疾患想定	事前学修：代表的な疾患の特徴を事前に復習し、救急隊としての活動をイメージして臨むこと。 事後学修：シミュレーションⅠ、Ⅱと今までのシミュレーションで修得したスキルを、様々な想定を経験することによって、ブラッシュアップする。	60	60	
72					
73	総合演習② 内因性疾患・外因性疾患想定 気管挿管等プロトコル準拠と適切な隊活動 (効果確認)	事前学修：代表的な疾患の特徴を事前に復習し、救急隊としての活動をイメージして臨むこと。 事後学修：シミュレーションⅠ、Ⅱと今までのシミュレーションで修得したスキルを、様々な想定を経験することによって、ブラッシュアップする。	60	60	
74					
75					
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（演習 実技 グループディスカッション）				
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『JPTECガイドブック』一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版 『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『標準多数傷病者対応MCLSテキスト』一般社団法人日本災害医学会、ぱーそん書房				
参考文献	『E. M. T Support Book』山本保博（監修）、東京法令出版				
備考	進捗状況や理解度に応じて順序等を変更する可能性がある。シミュレーションⅠ、Ⅱと各項目の内容を含めた効果確認を行う場合がある。授業時の服装は指示がない限り、実習服、実習靴、アポロキャップ着帽とする。公安職・医療従事者をを目指す学生として相応しい整容で授業に臨むものとする。フィードバックは、各項目の終了後適宜実施する。授業内課題は授業后感想等（20％）で評価する。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

- ・救急救命士として25年以上の実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できるよう教授する。
- ・救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-CLP-04				
		●	●	●	●					
科目名	救急救命シミュレーションⅣ				単位 認定者	堀口 雅司		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	5 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	150 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	75 回			
授業の概要	救急隊を編成して様々な想定によるシミュレーションを行い、「救急救命シミュレーションⅠ」「救急救命シミュレーションⅡ」「救急救命シミュレーションⅢ」で修得した技術を向上させる。一連の救急救命活動について、出場、救急現場、観察、処置、搬送、医療機関収容等、総合的な訓練を実施し、より高度な資材、機材の使用法や注意点等の理解も図る。具体的な救急救命活動のシミュレーションにより、救急救命士として活動できる、実践的な能力や技術を身につけ、救急救命士としての倫理観を養う。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーションⅠからⅢで修得した知識、技術を踏まえ、緊急度・重症度の判断力を中心とした内容を修得する。</li> <li>・各班でプロトコル・活動基準を考慮した救急現場活動を理解する。</li> <li>・国家試験出題基準に沿う知識・技術を統合し、実践できる。</li> <li>・OSCE形式評価に対応し、時間内に安全で適切な処置を実施できる。</li> <li>・根拠に基づく口頭説明（同意・引継ぎ）ができる。</li> <li>・チーム医療の中で指導的役割を担う意識をもって行動できる。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習はペアまたは小グループで行う。</li> <li>・授業は主に実技を実施するので指示がない限り、実習服、実習靴、アポロキャップ着帽とする。</li> <li>・救急救命士標準テキスト等を持参する。</li> <li>・演習で使用する人形は、本物の傷病者として扱うのとし、傷病者に失礼な態度がないように取り組むこと。</li> <li>・事前にテキストやUNIPAへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	国家試験・実技評価（OSCE） 方針説明／学習計画（弱点分析）				事前学修：国家試験出題基準の確認。 事後学修：個別学習計画を作成。		60	60	堀口 雅司 横山 亜矢	
2										
3	基本手技・評価 （BLS/ALS／気道・呼吸管理）				事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明（根拠）を準備する。 事後学修：自己評価（ルーブリック）と弱点補強を実施。		60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 佐藤武諭 橋本 美菜	
4										
5										

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	病院内における救急救命士の役割と活動 (院内救急/ドクターカー同乗/病院内特定行為)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
7					
8	循環・呼吸OSCE (心肺停止・不整脈・呼吸不全)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
9					
10					
11	病院内での救急救命士の活動 (ER・院内急変対応・ドクターカー同乗シミュレーション)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢
12					
13	外傷OSCE (初期評価・止血・固定・ショック)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
14					
15					
16	病院内における救急救命士の活動 (病院間搬送・ICU/HCU連携・重症患者管理)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
17					
18	神経OSCE (脳卒中・けいれん・意識障害)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
19					
20					
21	特定行為・気道管理・循環管理 重点整理	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
22					
23	中毒・環境障害OSCE	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
24					
25					

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
26	外傷救急・JPTECプロトコール 重点整理 (多発外傷・骨折・熱傷等)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 菊地 芽唯
27					
28	小児・周産期・高齢者OSCE	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
29					
30					
31	神経救急・意識障害・内科疾患 重点整理 (脳卒中・てんかん・内分泌疾患)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
32					
33	OSCE総合演習 (技術評価：気道確保)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 手技を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
34					
35					
36	災害医療・MCLS・CBRNE・救急医療システム 重点整理 (災害関連頻出項目)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一
37					
38	OSCE総合演習 (技術評価：循環管理)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武諭毅 橋本 美菜
39					
40					
41	OSCE総合演習 (技術評価：現場活動手順)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜 菊地 芽唯
42					
43					
44					
45					

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
46	全分野横断重点整理 (主に観察評価・気道管理・呼吸・循環管理・病態生理)	事前学修：救急救命士標準テキストを予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢
47					
48	OSCE総合演習 (全技術・判断の総合演習)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口 雅司 横山 亜矢 橋本 美菜
49					
50					
51	全分野横断重点整理 (主に外傷救護・内因性疾患・災害医療・感染防護・医療安全・救急活動記録・病院前救護システム)	事前学修：救急救命士標準テキストを予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
52					
53	OSCE総合演習 (コミュニケーション・倫理観の総合演習)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習しておくこと。 手技等を見直すこと。 事後学修：結果を分析し、評価の低い項目は再度復習すること。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 横山 亜矢 橋本 美菜
54					
55					
56	症候別アプローチ (意識障害・頭痛・けいれん・運動麻痺・めまい・呼吸困難・喀血・一過性意識消失と失神・胸痛・動悸・腹痛・吐血・下血・腰痛・背部痛・体温上昇等)	事前学修：救急救命士標準テキストを予習しておくこと。 事後学修：授業後には内容の復習、過去問、関連資料の確認を行うこと。	60	60	堀口 雅司 佐藤武諭毅 橋本 美菜
57					
58					堀口 雅司 横山 亜矢 佐藤武諭毅 橋本 美菜
59					
60					
61	総合演習① (心肺停止：呼吸系・循環系・消化器疾患・その他、呼吸不全・心不全、ショック・血液分布異常性ショック等)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 佐藤武諭毅 橋本 美菜
62					
63					
64					
65					

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
66	総合演習② (重症頭蓋内損傷・脳卒中、産婦人科・小児・異常分娩、呼吸不全・心不全、ショック・アナフィラキシー、意識障害・頭痛・環境障害等)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	堀口 雅司 田中 耕一 佐藤武論毅 橋本 美菜
67					
68					
69					
70					
71	総合演習③ (腹痛・消化器系疾患、泌尿器・婦人科疾患、神経疾患、代謝疾患、精神疾患・自殺企図等)	事前学修：救急救命士標準テキストの該当章を予習し、口頭説明(根拠)を準備する。 事後学修：自己評価(ルーブリック)と弱点補強を実施。	60	60	
72					
73					
74					
75					
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(演習 実技)				
<b>教科書</b>	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 『JPTECガイドブック』一般社団法人 JPTEC協議会、へるす出版 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版 『救急処置スキルブック(上巻)』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急処置スキルブック(下巻)』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『標準多数傷病者対応MCLSテキスト』一般社団法人日本災害医学会、ぱーそん書房				
<b>参考文献</b>	『E. M. T Support Book』山本保博(監修)東京法令出版				
<b>備考</b>	各回の終了後にフィードバックと振り返りを実施する。服装・整容・安全管理は指示に従い、実習用資機材・人形は実傷病者として尊重して取り扱う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
<ul style="list-style-type: none"> <li>救急救命士として25年以上の実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置・判断を実施できるよう指導する。</li> <li>救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を教授する。</li> </ul>

<b>科目ナンバリング</b>
EM-2-CLP-06

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
		●	●	●	●

科目名	臨床実習				単位認定者	横山 亜矢		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	4 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	160 時間			
						授業回数	集中			

**授業の概要**  
各医療機関において臨床実習を行う。様々な救急処置を見学し、救急医療の現場を正しく理解し、医師やメディカルスタッフの指導の下に傷病者に接することで、病状、病態等の観察・判断の実際を学び、傷病者への対応についても体験する。臨床実習を通して、これまで修得した救急医療に関する知識の整理・定着と救急救命処置技術の修得を目指す。また、救急医療におけるチーム医療の実際を体験するとともにメディカルコントロールの重要性を認識し、医師の指示の下で救急医療を担う救急救命士としての自覚と責任感を養う。

**到達目標**  
臨床実習では医療知識の応用と、特定行為に関わる技術の習得を主体とする。さらに、医療現場の見学と介助を通して診療補助に対する理解を深める。これまで学んだ事や救急用自動車同乗実習で体験したこと、そして今回の臨床実習にて現場から医療機関までの一連の流れを学ぶ。

**学修者への期待等**  
毎日が交替で勤務している多忙な現場であるとともに、緊急性が高い現場で実習することを理解し、自分の所在を明らかにし、様々な状況に対応できるよう幅広い視野を持ち行動してほしい。どのような経験も自分の財産になるので目的意識と問題意識を持ち積極的な姿勢で臨むことを期待する。

授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
------	------	-----------	-----------

<p>I. 実習期間：令和8年11月19日から12月20日（うち20日間）</p> <p>II. 実習目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療知識の応用と特定行為に関わる技術の習得を目的とする。</li> <li>2. 医療現場の見学や医療行為の介助を通じて、診療補助に対する理解を深める。</li> <li>3. 救急要請から病院収容後の検査、治療等の一連の過程、チーム医療について理解する。</li> <li>4. インフォームドコンセントの重要性や患者や家族に対してのいたわりの心をもつことを学ぶ。</li> <li>5. 病院内の医療従事者の業務やそれぞれの連携についての理解を深める。</li> </ol> <p>III. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識や技術の習得ならびに診療補助に対する理解を深める。</li> <li>2. 患者を支えている様々な医療従事者の役割や内容、どのように連携をしているかを理解する。</li> <li>3. 様々な状況にある傷病者や家族等の関係者に対する接遇について学ぶ。</li> </ol> <p>IV. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急救命士を目指す学生として誠実かつ謙虚な姿勢で実習に臨むとともに、事前・事後学習を十分行い積極的な態度で学ぶ。</li> <li>2. どのような内容でも与えられた役割は確実に遂行すること。</li> <li>3. 毎日の実習記録を臨床実習指導者に提出すること。</li> <li>4. 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して症例に対する理解を深める。</li> </ol>	<p>事前学修：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人としてのふさわしいマナーやコミュニケーションスキル守秘義務などを身につけておくこと</li> <li>2. 実習先の施設情報や特色などについて調べておくこと</li> <li>3. 知識や技術の復習を行うこと</li> </ol> <p>事後学修：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習で体験したことや症例についてまとめておくこと</li> </ol>	90	90
--	--	----	----

教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版
参考文献	なし
備考	詳細については、後日配布する実習要綱を参照してください。 学科内の臨床実習オリエンテーションに参加すること。 評価については、実習施設における実習指導者の評価、実習記録、報告会での発表等を総合的に判断し、評価します。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**  
担当教員は5年以上の救急救命士における実務経験を有しており、実習指導者についても医師または救急救命士資格および実務経験を有した上で指導を行います。その経験を活かして学生が医療従事者、救急救命士として理解を深めることのできる実習を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-CLP-06			
		●	●	●	●				
科目名	救急用自動車同乗実習				単位認定者	横山 亜矢		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	40 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	各消防機関において救急用自動車同乗実習を行う。消防機関から救急車が出動する際等に、それに同乗し実習を行う。出動の待機から、出動、救急現場、搬送、医療機関への引き継ぎ等あらゆる場面における救急救命士の活動を見学し、救急医療の実際や救急体制、消防機関における救急救命士の役割を理解する。また、実習までに修得した知識や技術を、救急救命の現場において適切かつ安全に実用するための視点を身につける。また、救急救命士の、傷病者やその家族への対応から、救急救命士に必要な倫理観についても考察する。								
到達目標	救急用自動車同乗実習では、消防機関における消防職員、救急救命士としての役割を学ぶことを目的とする。また、現場で活躍する隊員の方々の手技等を見学するとともに、知識と現場対応能力の向上を目標とする。								
学修者への期待等	規則や心得を順守し、実習生として主体的かつ責任ある行動を取ること。1年次の座学や、救急救命シミュレーションⅠ・Ⅱでの学修を基に、現場での見学や体験を通して現場活動や症例に対する理解を深め、将来に繋げていけることを期待する。								
授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
I. 実習期間：令和8年5月11日から6月14日(うち5日間) II. 実習目的 1. 消防機関における消防職員、救急救命士としての果たすべき役割を学ぶ。 2. 消防署内での業務、現場活動を通じ、消防業務ならびに救急業務等について理解する。 3. 現場での接遇や医療機関との連携等の実際を見学し、対応を習得する。 4. 救急隊員が行う傷病者の観察方法ならびに観察結果を見学し、知識及び技術の確認を行うとともに、学修の成果を挙げる。 III. 実習目標 1. 消防機関での消防職員、救急救命士としての役割を知ることができる。 2. 消防署内での業務を理解し、消防職員を目指す学生として使命感及び向上心を獲得することができる。 3. 現場活動の見学を通して、どのように実践されているか理解できるとともに、今後の課題が分かる。 IV. 実習計画 1. 救急救命士を目指す学生として誠実かつ謙虚な姿勢で実習に臨むとともに、事前学習を十分行い積極的な態度で学ぶ。 2. 実習時間は1日概ね8時間とする。ただし、救急活動等が長時間にわたり、実習終了予定時間を超えた場合でも、救急活動終了までは実習を継続すること。 3. 毎日の実習記録を臨床実習指導者に提出すること。 4. 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して症例に対する理解を深める。 5. 実習終了後に報告会を開催し、学生間での学びを共有する。					事前学修： 1. 社会人としてのふさわしいマナーやコミュニケーションスキル、守秘義務などを身につけておくこと 2. 実習先の施設情報や特色などについて調べておくこと 3. 知識や技術の復習を行うこと 事後学修： 1. 実習で体験したことや症例についてまとめておくこと 2. 実習の成果をスライドにまとめ発表をすること			90	90
教科書	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版								
参考文献	『救急処置スキルブック〈上巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急処置スキルブック〈下巻〉』田中秀治(総監修)、晴れ書房 『救急技術マニュアル』救急業務研究会、東京法令出版 『JPTECガイドブック』一般社団法人JPTEC協議会、へるす出版								
備考	詳細については、後日配布する実習要綱を参照してください。 学科内の救急用自動車同乗実習オリエンテーションに参加すること。 実習に関するスライド発表については、報告会でフィードバックを行います。 評価については、実習施設における実習指導者の評価、実習記録、報告会での発表等を総合的に判断し、評価します。								

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は5年以上の救急救命士における実務経験を有しており、実習指導者についても救急救命士資格および実務経験を有した上で指導を行います。その経験を活かして学生が消防職員、救急救命士として理解を深めることのできる実習を行います。

## 救急救命学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

## 救急救命学科のナンバリングの見方

【例】EM-1-○○○-01

EM	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

①学科（専攻）識別番号（全学共通教養教育科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：C0

救急救命学科：EM

②科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養教育科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎科目：1

専門展開科目：2

③科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野 人間と文化	HCU	Human & culture
教養教育分野 人間と社会	HSO	Human & society
教養教育分野 人間と科学	HSC	Human & science
人体の構造と機能	HAP	Human Anatomy and Physiology
疾患の成り立ちと回復の過程	PDR	Pathogenesis of disease and process of recovery
健康と社会保障	HSS	Health and Social Security
救急医学概論	IEM	Introduction to emergency medicine
救急症候・病態生理学	ESP	Emergency symptoms and pathophysiology
疾病救急医学	DEM	Disease Emergency Medicine
外傷救急医学	TEM	Trauma Emergency Medicine
環境障害・急性中毒学	EDA	Environmental Disorders/Acute Toxicology
臨地実習	CLP	Clinical Practicums

④連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング		
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	CO-0-HCU-01	
		英語	CO-0-HCU-02	
	人間と社会	現代の社会	CO-0-HSO-03	
		法律入門	CO-0-HSO-04	
	人間と科学	情報処理	CO-0-HSC-01	
		数理リテラシー	EM-0-HSC-02	
専門教育分野	専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖生理学	EM-1-HAP-01
			人体構造と機能Ⅰ	EM-1-HAP-02
			人体構造と機能Ⅱ	EM-1-HAP-03
			人体構造と機能Ⅲ	EM-1-HAP-04
	疾患の成り立ちと回復の過程	薬理学	EM-1-PDR-01	
		病理学	EM-1-PDR-02	
		微生物学	EM-1-PDR-03	
		法医学	EM-1-PDR-04	
	健康と社会保障	社会保障論	EM-1-HSS-01	
		地域福祉論	EM-1-HSS-02	
	専門展開科目	救急医学概論	医学概論	EM-2-IEM-01
			救急救命医療概論	EM-2-IEM-02
			救急救命処置概論	EM-2-IEM-03
			感染症と災害医療	EM-2-IEM-04
		救急症候・病態生理学	救急病態生理学	EM-2-ESP-01
			救急症候学Ⅰ	EM-2-ESP-02
			救急症候学Ⅱ	EM-2-ESP-03
			救急症候学Ⅲ	EM-2-ESP-04
		疾病救急医学	疾病救急医学Ⅰ	EM-2-DEM-01
			疾病救急医学Ⅱ	EM-2-DEM-02

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
		疾病救急医学Ⅲ	EM-2-DEM-03
		疾病救急医学Ⅳ	EM-2-DEM-04
	外傷救急医学	外傷学Ⅰ	EM-2-TEM-01
		外傷学Ⅱ	EM-2-TEM-02
	環境障害・急性中毒学	環境障害・急性中毒学	EM-2-EDA-01
	臨地実習	救急救命シミュレーションⅠ	EM-2-CLP-01
		救急救命シミュレーションⅡ	EM-2-CLP-02
		救急救命シミュレーションⅢ	EM-2-CLP-03
		救急救命シミュレーションⅣ	EM-2-CLP-04
		臨床実習	EM-2-CLP-06
		救急用自動車同乗実習	EM-2-CLP-05

救急救命学科 教員一覧

	職位	氏名	E-mail
1	教授 (副学長)	あおやま みちこ 青山 美智子	m_aoyama@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 (学科長)	ほりぐち まさし 堀口 雅司	m_horiguchi@seiyogakuin.ac.jp
3	准教授	たなか こういち 田中 耕一	ki_tanaka@seiyogakuin.ac.jp
4	講師	よこやま あつ矢 横山 亜矢	a_yokoyama@seiyogakuin.ac.jp

救急救命学科 実務経験を有する教員一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
法律入門	2	鈴木 一樹	公認会計士として企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事
人体構造と機能 I	1	平山 和美	脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。
		川岸 久太郎	脳神経外科の医師及び解剖学教員として30年以上の経験を生かして、救急救命士に必要な解剖学的知識を理解させる。
人体構造と機能 II	1	田林 暁一	医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて呼吸、消化器、循環、及び血管の構造と機能について講義する。
		西條 芳文	
医学概論	1	堀口 雅司	救急救命士として25年間の実務経験を活用して、医療人としてのあり方、倫理、法律について教授する。 救急隊長としての実務経験、公認心理師としての視点を活用して、救急救命士に関する法令・ストレスマネジメントなどを含めた心理学的な背景について教授する。
救急救命医療概論	2	堀口 雅司	救急救命士として25年間の実務経験、公認心理師としての視点を活用して、必須事項を中心に授業を展開する。
救急救命処置概論	2	堀口 雅司	救急救命士として25年間の実務経験を活用し、救急救命現場での冷静で適切な判断の基礎となる、医学的に体系化された救急救命処置について解説する。
救急病態生理学	2	横山 亜矢	担当教員は消防職員として5年以上の実務経験と、救急救命士資格を有しており、その経験を活かして実習や現場での活動に繋げることができるような授業を行います。
救急症候学 I	2	横山 亜矢	担当教員は消防職員として5年以上の実務経験と、救急救命士資格を有しており、その経験を活かして実習や現場での活動に繋げることができるような授業を行います。
救急症候学 II	2	田中 耕一	担当教員は、消防職員として37年におたる実務経験と救急救命士資格を有しています。 これまでの経験および研究活動を活かし、学生が救急症候学への理解を深め、救急医療を学ぶ上で必要となる基礎医学の知識が身につくような授業を行います。
疾病救急医学 I	2	佐藤 武諭毅	株式会社ファーストエマージェンシーにて10年の救急関連実務（イベント救護等）を有する。加えて、他救急救命士養成校で講師を担当。実務と教育経験を踏まえ、疾病救急医学 I では疾病救急の評価と初期対応を実践的に教授する。
疾病救急医学 II	2	佐藤 武諭毅	株式会社ファーストエマージェンシーにて10年の救急関連実務（イベント救護等）を有する。加えて、他救急救命士養成校で講師を担当。実務と教育経験を踏まえ、疾病救急医学 II では疾病救急の評価と初期対応を実践的に教授する。
外傷学 I	2	田中 耕一	担当教員は、消防職員として37年におたる実務経験と救急救命士資格を有しています。 これまでの経験および研究活動を活かし、学生が外傷学への理解を深め、救急医療を学ぶ上で必要となる基礎医学の知識が身につくような授業を行います。
救急救命シミュレーション I	5	田中 耕一	救急救命士として実務経験を活用して、救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。
救急救命シミュレーション II	5	田中 耕一	救急救命士として実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できるよう教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。
感染症と災害医療	1	横山 亜矢	担当教員は消防職員として5年以上の実務経験と救急救命士資格を有しており、その経験を生かして災害に対する理解を深め、臨床現場につなげることができるような実践的な授業を行います。
環境障害・急性中毒学	1	横山 亜矢	担当教員は消防職員として5年以上の実務経験と、救急救命士資格を有しており、その経験を活かして授業を行います。
救急救命シミュレーション III	5	堀口 雅司	救急救命士として実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できるよう教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。
救急救命シミュレーション IV	5	堀口 雅司	救急救命士として実務経験を活用して、傷病者の病態に応じた処置を判断して実施できるよう教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。
臨床実習	4	横山 亜矢	担当教員は5年以上の救急救命士における実務経験を有しており、実習指導者についても医師または救急救命士資格および実務経験を有した上で指導を行います。その経験を活かして学生が医療従事者、救急救命士として理解を深めることのできる実習を行います。
救急用自動車同乗実習	1	横山 亜矢	担当教員は5年以上の救急救命士における実務経験を有しており、実習指導者についても救急救命士資格および実務経験を有した上で指導を行います。その経験を活かして学生が消防職員、救急救命士として理解を深めることのできる実習を行います。
	48	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	62	設置基準上の標準単位数	

## 2026（令和8）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

### 成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。